SONY

3-075-346-**02** (1)

取扱説明書

CDマビカ応用編／困ったときは

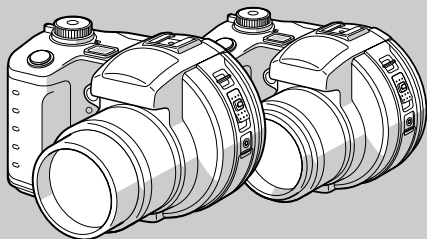
⚠警告 電気製品は安全のための注意事項を守らないと、火災や人身事故になることがあります。

この取扱説明書には、事故を防ぐための重要な注意事項と製品の取り扱いかたを示しています。**この取扱説明書と別冊の「CDマビカ基本編」、「安全のために」をよくお読みのうえ、**製品を安全にお使いください。お読みになったあとは、いつでも見られるところに必ず保管してください。

CD Mavica

別冊の
「CDマビカ基本編」
もご覧ください。

MVC-CD400/CD250

目次

操作の前に

静止画を撮る（応用）

静止画を見る（応用）

静止画を編集する

動画を撮る

静止画／動画を楽しむ

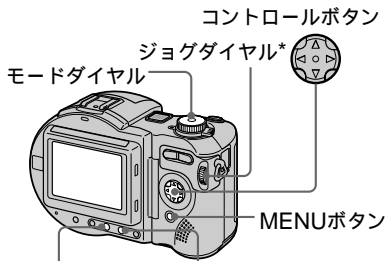
困ったときは

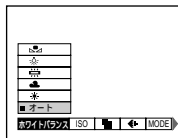
その他

別冊の「CDマビカ基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、本書では「**別冊基本編** ➡ページ番号」のようにご案内しています。

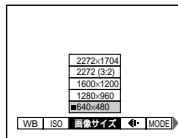
本書のイラストについて
本書のイラストは特に説明が必要な所を除きMVC-CD400を使用しています。

メニューの設定を変える

ここでは、本書でよく使われるメニューやSET UP画面の使いかたをまとめて説明します。

* MVC-CD400のみ

1 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

2 コントロールボタンの◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

選ばれた項目の文字・記号が黄色に変わります。

3 コントロールボタンの▲/▼を押し、設定を選ぶ

選ばれた設定の枠が黄色に変わり、そのまま決定されます。

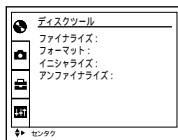
- MVC-CD250では、メニューに［ ］(EV)、［ ］(フォーカス)、［ ］(スポット測光)が表示されます(63ページ)。

メニュー表示をやめるには

MENUボタンを押してください。

SET UP画面で設定を変える

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UP画面が表示されます。

2 コントロールボタンの▲/▼/◀/▶を押し、設定したい項目を選ぶ

選ばれた設定の枠が黄色に変わります。

3 コントロールボタンの中央の●を押す

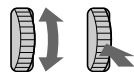
設定（実行）されます。

- ［📷］を選んだときは、MVC-CD250では、［ホログラフィックAF］（70ページ、**別冊基本編** ➡ 28ページ）の項目は［AFイルミネーター］と表示されます。［ブラケット設定］（70ページ）の項目は表示されません。
- ［💼］を選んだときは、MVC-CD250では、［コンバージョンレンズ］（70ページ）と［ホットシュー］（70ページ）の項目は表示されません。

SET UP画面表示をやめるには

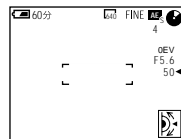
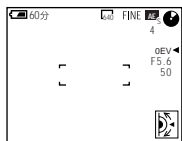
モードダイヤルを「SET UP」以外にしてください。

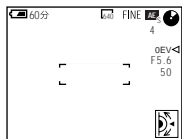
ジョグダイヤルの使いかた（MVC-CD400のみ）

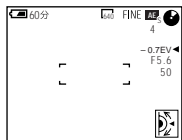
手動調整モード（シャッタースピード優先モード、絞り優先モード、マニュアル露出モード）や、露出補正、手動フォーカスを使って撮影するときは、ジョグダイヤルで設定値を変更します。

ジョグダイヤル

手動調整モードの場合

1 モードダイヤルを「S」、「A」、「M」のいずれかにする

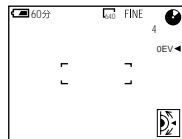
画面右側に設定できる項目が表示されます。

2 ジョグダイヤルを回し、設定したい項目を選ぶ

3 ジョグダイヤルを押す

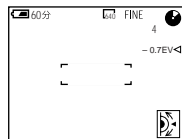
数値が黄色で表示されます。

4 ジョグダイヤルを回し、数値を選ぶ

数値は表示された状態で決定されます。

5 他の項目を設定するときは、ジョグダイヤルを押してから、手順2～4を繰り返す

露出補正、手動フォーカスの場合

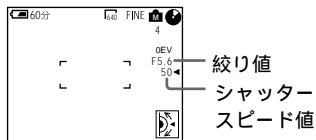
1 ボタンを1回またはFOCUSボタンを2回押す

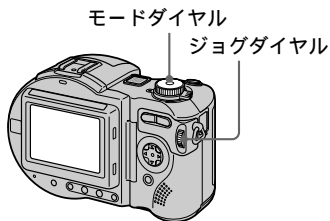
画面右側に設定できる数値が表示されます。（FOCUSボタンを2回押した場合は、数値の位置にが表示されます。）

2 ジョグダイヤルを回し、設定したい数値を選ぶ

数値は表示された状態で決定されます。

手動調整して撮る

（MVC-CD400のみ）

モードダイヤル：S/A/M

撮影目的に合わせてシャッタースピード／絞りを手動調整できます。

モードダイヤル	説明
S	シャッタースピードを優先するモードです。被写体の明るさに応じた適正露出になるように、その他の設定は自動調整されます。
A	絞りを優先するモードです。被写体の明るさに応じた適正露出になるように、その他の設定は自動調整されます。
M	シャッタースピード／絞りのふたつとも、撮影条件に合わせて手動で設定するためのモードです。

- 動画撮影時は手動調整できません。
- 設定後の撮影時、シャッターを半押しすると、液晶画面の設定値表示が点滅することがあります。そのまま撮影できますが、設定し直すことをおすすめします。

シャッタースピード優先モード

被写体の動きを止めたり、逆に流動感を強調する撮影などに便利です。

1/1000秒時（最短）

8秒時（最長）

1 モードダイヤルを「S」にする

2 シャッタースピード値を選ぶ

シャッタースピード値をジョグダイヤルで選び、押すと決定されます。1/1000秒から8秒の範囲で、シャッタースピードを選べます。
1/25秒またはそれよりも遅い設定のシャッタースピードを選択すると、シャッタースピードの前にNRと表示され、自動的にNRスローシャッターモードに入ります。

- 1秒以上は「1"」のように「"」が表示されます。

NRスローシャッター

NRスローシャッターとは撮影した画像からノイズを除去し、きれいな画像を得る機能です。手ぶれを防ぐために三脚のご使用をおすすめします。

シャッターを深く押しこむ。

↓

設定されているシャッタースピードの時間だけ露光し、画面が黒くなり、「撮影中」と表示される。

↓

設定されているシャッタースピードの時間だけノイズを低減する処理を行い、「処理中」と表示される。
この時、カシャッとシャッター音がします。

↓

「記録中」と表示され、画像が記録される。

絞り優先モード

被写体と背景の両方、または被写体のみにピントを合わせたいなど、ピントの合う深さを変える時に便利です。

絞り値F2（最小）

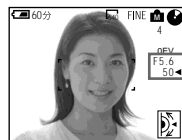
絞り値F8（最大）

1 モードダイヤルを「A」にする

2 絞り値を選ぶ

絞り値をジョグダイヤルで選び、押すと決定されます。F2からF8の範囲で選べます。

マニュアル露出モード

シャッタースピードと絞り値を、撮影目的に合わせて手動で調整できます。

画面上にEV値（14ページ）が表示されますが、0EVが本機が最適と判断した設定値です。

1 モードダイヤルを「M」にする

2 シャッタースピード値表示を選ぶ

シャッタースピード値表示をジョグダイヤルで選び、ジョグダイヤルを押します。

3 シャッタースピード値を選ぶ

シャッタースピード値をジョグダイヤルで選び、押すと決定されます。1/1000秒から8秒の範囲で、シャッタースピードを選べます。

4 **絞り値表示を選ぶ**

絞り値表示をジョグダイヤルで選び、ジョグダイヤルを押します。

5 **希望の絞り値を選ぶ**

絞り値をジョグダイヤルで選び、押すと決定されます。F2からF8の範囲で選べます。

ピント合わせの方法を選ぶ

モードダイヤル：(/S/A/M)*/SCN/

マルチポイントAF

マルチポイントAFを使うと、中央を中心に左右の3か所で距離を測定するので、構図に依存しないオートフォーカス撮影ができます。被写体がフレームの中心になくピントの合わせづらい場合に有効です。

お買い上げ時はマルチポイントAF（別冊基本編 → 22ページ）設定されています。

測距枠選択モード（MVC-CD400のみ）

測距枠選択モードでは、マルチポイントAF、中央、右、左、上、下の6種類のAF測距枠から選択することができます。

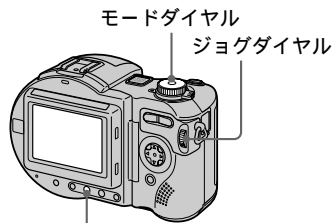
中央、右、左、上、下の測距枠を選択すると、測距枠内でAFにすることで、狙った部分にピントを合わせることができます。

中央重点AF（MVC-CD250のみ）

フレームの中心部のAF測距枠内でオートフォーカス撮影ができます。

* MVC-CD400のみ

- デジタルズームやホログラフィックAF（MVC-CD400）またはAFイルミネーター（MVC-CD250）を使用するときは、中央付近の被写体を優先したAF動作になります。この場合、AF測距枠は表示されません。

MVC-CD400の場合

1 モードダイヤルを「📷」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 FOCUSボタンを押して、測距枠選択モードを選ぶ

FOCUSボタンを押すたびにモードが次のように切り換わります。

測距枠選択モード
↓
フォーカスプリセット
↓
オートモード

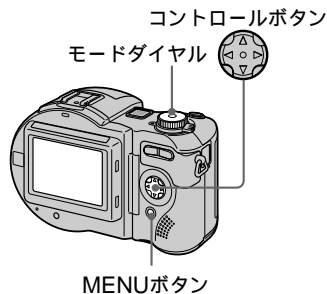
3 希望の測距枠を選ぶ

ジョグダイヤルを回してマルチポイントAF、中央、右、左、上、下の測距枠を選ぶことができます。この時、液晶画面右にはそれぞれの枠が表示されます。

シャッターを半押ししたときにピントが合うと、枠の色が白から緑色に変わります。

- 手順3でマルチポイントAFを選択した場合、ピントが合うと測距をおこなった緑色の枠が表示されます。

オートフォーカスに戻すには

手順3でフォーカスボタンを2回押してください。

MVC-CD250の場合

1 モードダイヤルを「📷」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

3 ◀/▶で「F」（フォーカス）、▲/▼で［マルチAF］または［中央重点AF］を選ぶ

オートフォーカスでピントを合わせます。ピントが合うと枠の色が白から緑色に変わります。

マルチポイントAF

中央重点AF

AFロック撮影をする

モードダイヤル：📷/SCN/🎞

被写体がフレームの中心になくピントが合わせづらい場合は、測距枠選択モード（MVC-CD400）や中央重点AF（MVC-CD250）を使って撮影することができます。
たとえば2人の人物を撮るとき、中央に隙間があると、背景にピントが合う場合があります。このようなときは、AFロックを使用し、ピントを狙った被写体に合わせて撮影します。

AF測距枠

- AFロックを使うと、画面端に被写体があるときにも、ピントが合った画像を撮ることができます。

1 被写体がAF測距枠内に入るように構図を変え、シャッターを半押しする

まず、ねらった被写体にピントを合わせます。AE/AFロック表示が点滅から点灯に変わるとピピッと音がしてピント合わせ完了です。

AFロック表示

2 半押しのまま構図を戻して、シャッターをさらに押し込む

人物にピントが合った状態で撮影されます。

- AFロックの操作はシャッターを押し込む前であれば、何回でもやり直せます。

被写体までの距離を設定する

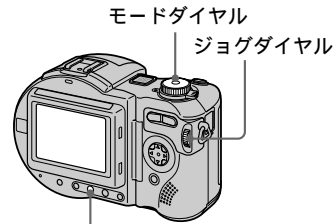
– フォーカスプリセット

モードダイヤル：(/S/A/M)*/SCN/

被写体との距離に応じて撮影距離をあらかじめ設定して撮影するときや、網や窓ガラス越しの被写体の撮影など、オートフォーカスが効きにくいときにフォーカスプリセットを使うと便利です。

* MVC-CD400のみ

- フォーカス距離の設定は多少の誤差を含んでいます。目安としてお使いください。
- レンズを上下に向けると誤差は大きくなります。
- ズームボタンのTを押してズームを望遠にしていると、約50 cm以内のフォーカスが正しく合わないことがあります。その場合、フォーカス距離情報が点滅します。点滅しなくなるまで、ズームボタンのWを押してください。
- コンバージョンレンズ装着時はフォーカスプリセットは正しく働きません。

MVC-CD400の場合

1 モードダイヤルを「」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 FOCUSボタンを2回押す

フォーカスが固定され、手動フォーカス合わせ表示が表示されます。

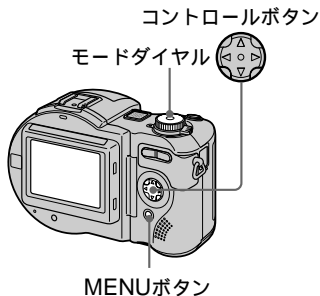
3 ジョグダイヤルでプリセットされているフォーカス設定を選ぶ

被写体までの距離は次の中から選べます。

（単位：m）0.1、0.2、0.3、0.5、0.8、1.0、1.5、2.0、3.0、5.0、7.0、10、15、∞（無限遠）

MVC-CD250の場合

オートフォーカスに戻すには

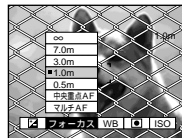
手順**3**でFOCUSボタンをもう一度押して、フォーカス距離表示を消してください。

1 **モードダイヤルを「📷」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする**

2 MENU**ボタンを押す**

メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［フォーカスアイコン］（フォーカス）を選び、▲/▼で被写体までの距離を選ぶ**

被写体までの距離は次の中から選べます。

0.5m、1.0m、3.0m、7.0m、∞（無限遠）

オートフォーカスに戻すには

手順**3**で［マルチポイントAF］または［中央重点AF］を選んでください。

露出を補正する

– EV補正

モードダイヤル：📷(/S/A)*/SCN/🎞

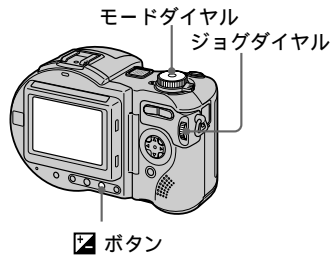
自動的に決定された露出を撮影者の意図する露出に変えるときに使います。補正する数値は+2.0EVから–2.0EVの範囲で、1/3EVきざみで設定することができます。

* MVC-CD400のみ

自動露出に戻すには

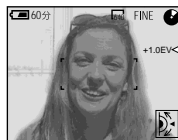
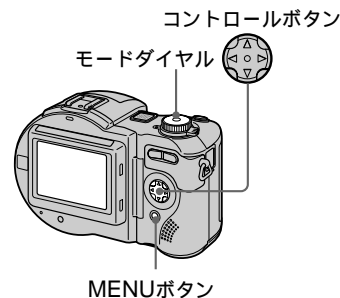
露出補正値を0EVに戻してください。

• 被写体が極端に明るいときや暗いとき、またはフラッシュを使って撮影したときは、設定した補正が効かないことがあります。

MVC-CD400の場合

1 モードダイヤルを「📷」、「S」、「A」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 ボタンを押す

3 ジョグダイヤルで補正値を選ぶ

被写体の背景の明るさを確認しながら調節してください。

MVC-CD250の場合

1 モードダイヤルを「📷」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［］（EV）を選ぶ

▲/▼で露出補正値を選びます。
被写体の背景の明るさを確認しながら調節してください。

測光モード

モードダイヤル：(/S/A/M)*/SCN/

様々な撮影状況や撮影目的に合わせた測光モードを選ぶことができます。

* MVC-CD400のみ

マルチパターン測光（表示なし）
画面を多分割し、それぞれを測光します。被写体の位置や背景の明るさをカメラが判断してバランスのよい露出を決めます。
お買い上げ時はマルチパターン測光に設定されています。

中央部重点測光（）（MVC-CD400のみ）
画面の中央部に重点をおいて測光します。撮影意図に合わせて、中央部付近の被写体の明るさを基準に露出を決めます。

スポット測光（）
被写体の特定の部分を測光します。逆光のときや被写体と背景とのコントラストが強いときでも、撮りたい被写体に露出を合わせることができます。
撮りたいポイントにスポット測光照準を合わせて撮ります。

- 測光する場所とフォーカスを合わせる場所を一致させたいときは、中央重点AF（MVC-CD250）、測距枠選択モードの中央（MVC-CD400）を使うことをおすすめします（9ページ）。

スポット測光照準

撮影のテクニック
通常の撮影時、本機は自動で露出を補正しています。撮影画像を確認し、下の画像のようになっていたら、手動調節することをおすすめします。逆光の人物や雪景色で撮影するときは＋の方向に、画面いっぱいに黒い被写体を撮影するときなどは−方向に補正すると効果的です。

露出不足 → ＋方向に補正

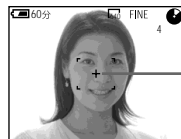
適正な露出

露出過剰 → −方向に補正

MVC-CD400の場合

モードダイヤル

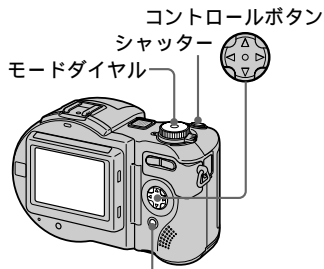
シャッター

[●] ボタン

1 モードダイヤルを「📷」、「S」、「A」、「M」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 [●] ボタンを繰り返し押して、希望の設定を選ぶ

3 撮影する

シャッターを軽く押し、本機の自動調節が完了したら撮影します。

MVC-CD250の場合

1 モードダイヤルを「📷」、「SCN」、「🎞」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［[●]］（スポット測光）、▲/▼で［入］を選ぶ

スポット測光照準が表示されます。

4 撮影する

シャッターを軽く押し、本機の自動調節が完了したら撮影します。

スポット測光を解除するには

もう一度コントロールボタンの◀/▶で［[●]］（スポット測光）を選び、▲/▼で［切］を選んでください。

画面からスポット測光照準が消え、通常の測光に戻ります。

露出を固定して撮る

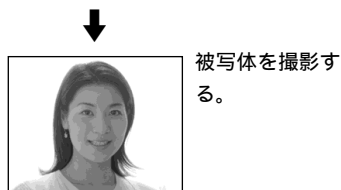
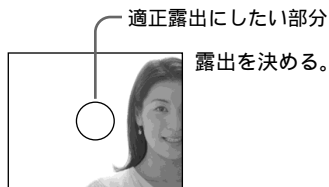
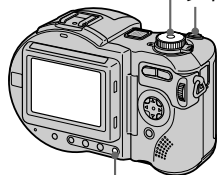
（MVC-CD400のみ）

ー AE LOCK

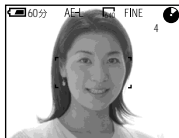
モードダイヤル：/S/A/SCN/

AE LOCKボタンを押すと、その構図での露出を固定します。スポット測光で適正露出にしたい部分を測光し、その後、構図を変えて撮影するときなどに有効です。

露出を決める。

被写体を撮影する。

1 モードダイヤルを「」、「S」、「A」、「SCN」、「」のいずれかにする

2 欲しい露出の得られる方へ本機を向け、AE LOCKボタンを押す

露出が固定され、AE-Lマークが出ます。

3 被写体へ向き直り、シャッターを軽く押す

フォーカスを調節します。

4 シャッターを深く押し込む

AE LOCKを解除するには

以下のいずれかの操作を行います。

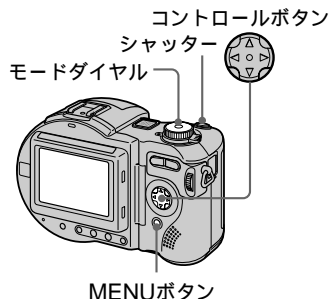
- 手順2の後でもう一度AE LOCKボタンを押す。
- 手順3の後でシャッターから指を離す。
- 手順4でそのまま画像を撮る。

最適な露出を探す

（MVC-CD400のみ）

ー ブラケット

モードダイヤル： 📷/S/A/M/SCN

自動的に露出を変えて3枚の画像を連続して撮影します。露出補正量の設定は、適正露出を中心に1/3EVごとに＋1.0EVから－1.0EVの範囲で選択できます。

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

SET UPが表示されます。

2 ▲/▼で［📷］（カメラ）、▶/▲/▼で［ブラケット設定］の順に選び、▶を押す

3 希望の露出振り幅を▲/▼で選び、●を押す

±1.0EV：露出値を上下に1.0EVずらして撮影します。

±0.7EV：露出値を上下に0.7EVずらして撮影します。

±0.3EV：露出値を上下に0.3EVずらして撮影します。

4 モードダイヤルを「📷」または「S」、「A」、「M」、「SCN」のいずれかにする

5 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

6 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［ブラケット］の順に選ぶ

7 撮影する

通常撮影に戻すには

手順6で［通常撮影］を選んでください。

- フラッシュは使えません。
- 撮影中は液晶画面に画像が出ません。シャッターを押す前に構図を決めておいてください。
- フォーカスとホワイトバランスは、最初の1枚目に設定された値に固定されます。
- EV補正をしているときは、EV補正値を中心に露出を変えて撮影します。
- 撮影の間隔は約0.5秒です。
- ブラケット撮影をするときは、1/30秒を超えるシャッタースピードは選べません。

色合いを調節する

– ホワイトバランス

モードダイヤル：(/S/A/M)*/SCN/

オート撮影のときは、撮影状況に応じてホワイトバランスが自動的に設定され、全体の色のバランスが調整されます。撮影条件を固定したいときや特定の照明状態で撮影するときは、マニュアルで設定することができます。

* MVC-CD400のみ

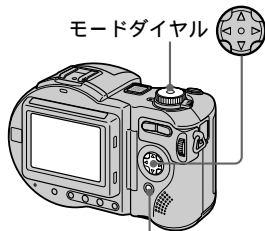
オート（表示なし）
ホワイトバランスを自動調節する

（太陽光）
戸外で撮るときや夜景やネオン、花火や日の出、日没などを撮影するとき

（曇天）
くもり空の時に撮影するとき

（蛍光灯）
蛍光灯の下で撮影するとき

（電球）
- パーティー会場など照明条件が変化する場所
- スタジオなどビデオライトの下
- ナトリウムランプ、水銀灯の下

ワンプッシュ（）（MVC-CD400のみ）
光源に合わせてホワイトバランスを一定の設定にするとき

1 モードダイヤルを「」、「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」、「」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［WB］（ホワイトバランス）、▲/▼で希望の設定を選ぶ

（ワンプッシュホワイトバランス）モードで撮る（MVC-CD400のみ）

① ［ワンプッシュ］を選ぶ。
が表示されます。
② 被写体を照らす照明条件と同じ所に白い紙などを置き、画面いっぱいに映す。
③ ▲を押す。
表示が速い点滅に変わります。
ホワイトバランスが調整されてカメラに記憶されると、点灯に変わります。

自動調節に戻すには

手順3で［オート］を選んでください。

- ちらつきのある蛍光灯のもとでは、［］を選択してもホワイトバランスが合わないことがあります。
- フラッシュ発光時にはマニュアルの設定が解除されオートモードで撮影されます。

- 表示について
遅い点滅：ホワイトバランスが未設定または設定できなかった場合
速い点滅：▲を押したあと、ホワイトバランス調整中
点灯：ホワイトバランス設定終了
- ▲ボタンを押しても表示が点滅から点灯に変わらない場合は［オート］で撮影してください。
- ワンプッシュホワイトバランスの設定を行うと、画面が一瞬青一色になります。

撮影のテクニック

被写体の見ための色は、光の状況に影響されます。夏の太陽のような光の下ではすべてのものが青っぽく見え、電球のような光源の下では白いものが赤っぽく見えます。人間の目にはすぐれた調節機能があり、光が変わってもすぐに正しい色を認識できます。しかし、デジタルスチルカメラは光の影響を大きく受けます。通常、本機は調節を自動で行なっていますが、撮影画像を再生してみて画面全体が不自然な色合いのときはホワイトバランスの設定をすることをおすすめします。

コマ送りの画像を撮る

– クリップモーション

モードダイヤル：

静止画（GIFアニメ）を連続して撮影できます。ファイル容量が小さいので、ホームページに載せたり、Eメールに添付したりするときに便利です。

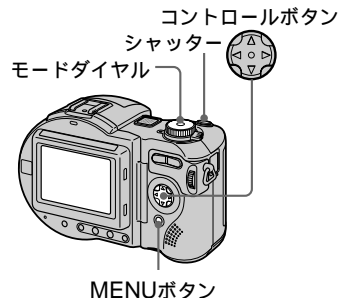
- クリップモーションの撮影に使用する色の数は256色以下に制限されています。これはGIF形式の記録の特性によるものです。このため、画像によっては画質が落ちることがあります。

ノーマル（160×120）
最大10コマのクリップモーションを撮影できます。ホームページなどでの利用に適しています。

モバイル（120×108）
最大2コマのクリップモーションを撮影できます。携帯電話などでの利用に適しています。

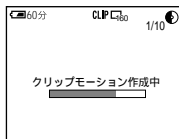
- モバイルモードは、ファイルサイズを小さく抑えているため画質が落ちます。
- クリップモーションの撮影枚数は62ページをご覧ください。

操作の前に

SET UPの［動画選択］を［クリップモーション］にしておきます（5、69ページ）。

1 モードダイヤルを「」にする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［］（画像サイズ）、▲/▼で希望のモードを選ぶ

4 1コマ目の撮影をする

5 次のコマを撮影する

撮りたいコマ数だけシャッターを押し、繰り返し撮影します。

6 中央の●を押す

全コマがディスクに記録されます。

- 手順**6**を行わないと、画像はディスクに記録されません。それまでは、本機に一時的に記録されています。
- クリップモーションでは、日付・時刻は挿入されません。
- クリップモーションをインデックス画面で見ると、実際の画像とは違って見える場合があります。
- 本機以外で作成したGIFファイルは、本機では正しく表示されない場合があります。

撮影した画像を途中で削除する

1 手順**4**または**5**で、◀（）を押す。
撮影した画像が順番に再生され、最後の画像で止まります。

2 MENUボタンを押し、メニューから［最後のみ削除］または［すべて削除］を選び、中央の●を押す。

3 ▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す。
手順**2**で［最後のみ削除］を選んだ場合は、手順**1**から**3**を繰り返すと、新しい画像から順に削除されていきます。

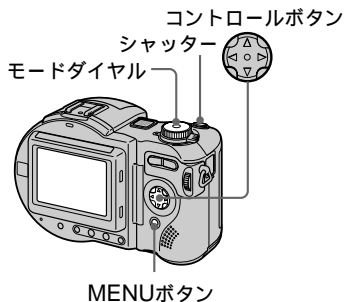
マルチ連写で画像を撮る
– マルチ連写

モードダイヤル：

一度のシャッターで16コマの画像を連写します。スポーツのフォームチェックなどに適してます。

- MVC-CD250では、メニューに［］（EV）、［］（フォーカス）、［］（スポット測光）が表示されます（4ページ）。

操作のまえに

SET UPの［動画選択］を［マルチ連写］にしておきます（5、69ページ）。

1 モードダイヤルを「🎞」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で「(インターバル)、▲/▼で希望のコマ間のインターバルを選ぶ

コマ間のインターバルは次の中から選べます。

1/7.5秒、1/15秒、1/30秒

4 撮影する

16コマの画像を1枚の画像（画像サイズ1280×960）として記録します。

- フラッシュは使えません。
- マルチ連写で撮った画像を本機で再生すると16コマの画像が一定の間隔で順番に再生されます。
- パソコンで再生すると撮影された16コマが1枚の画像として同時に表示されます。
- マルチ連写機能のないカメラで再生した場合、パソコンと同様に16分割された画像で表示されます。
- 日付・時刻は挿入されません。
- マルチ連写の撮影枚数は62ページをご覧ください。

撮影した画像を削除する

このモードでは希望のコマのみを削除することができません。
削除を選び実行すると16コマすべてが削除されます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押し、メニューから［削除］を選び中央の●を押す

3 ［実行］を選び、中央の●を押す

全てのコマが削除されます。

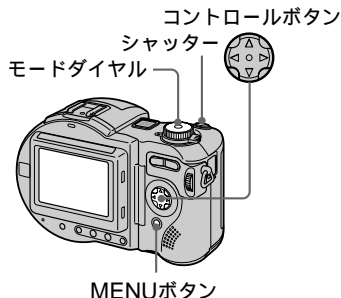
3枚連写する

– 3枚連写

モードダイヤル：(/S/A/M)*/SCN

連続撮影するときに使います。シャッターを押すと、3枚連続して撮影されます。

* MVC-CD400のみ

コントロールボタン
シャッター
モードダイヤル
MENUボタン

1 モードダイヤルを「」、「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［3枚連写］の順に選ぶ

4 撮影する

「記録中」の文字が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選んでください。

- フラッシュは使えません。
- 連写中は液晶画面に画像が出ません。シャッターを押す前に構図を決めておいてください。
- 撮影の間隔はMVC-CD400では約0.5秒、MVC-CD250では約0.4秒です。
- 3枚連写をするときは、1/30秒を超えるシャッタースピードは選べません。

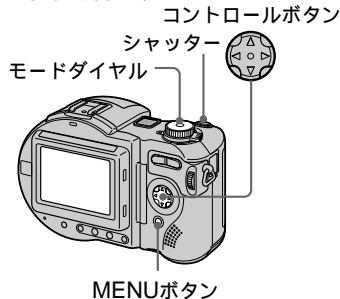
画像を圧縮せずに撮る

ー TIFFモード

モードダイヤル：(/S/A/M)*/SCN

画像データを圧縮せずに撮影するため、画質の劣化がほとんどありません。写真画質でのプリント時などに適しています。JPEG（圧縮）モードの画像も同時に記録します。

* MVC-CD400のみ

コントロールボタン
シャッター
モードダイヤル
MENUボタン

1 モードダイヤルを「」、「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［TIFF］を選ぶ

4 撮影する
「記録中」の文字が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選んでください。

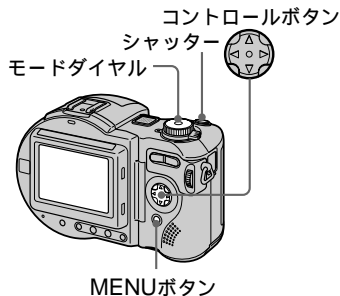
- JPEG画像は、**別冊基本編** → 20ページで選ばれている画像サイズで記録されます。TIFF画像は［2272（3：2）］（MVC-CD400）または［1600（3：2）］（MVC-CD250）を選んでいるとき以外は［2272×1704］（MVC-CD400）または［1600×1200］（MVC-CD250）で記録されます。
- データの書き込みに通常撮影よりも時間がかかります。
- TIFFモードの撮影枚数は61ページをご覧ください。

Eメール添付用の画像を撮る

– Eメール

モードダイヤル：📷(/S/A/M)*/SCN

Eメール添付に適した、小さいサイズの画像を撮影します。**別冊基本編** → 20ページで選択したサイズの静止画も同時に記録されます。

* MVC−CD400のみ

1 モードダイヤルを「📷」、「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す
メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［Eメール］の順に選ぶ

4 撮影する
「記録中」の文字が消えると、次の撮影ができます。

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選んでください。

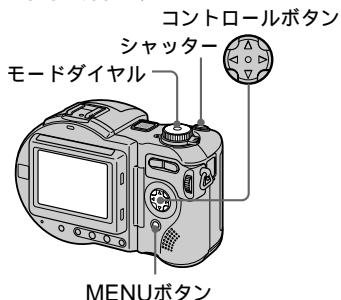
- 撮影した画像をEメールソフトウェアに添付する方法については、お使いのソフトウェアのヘルプをご覧ください。
- Eメールモードの撮影枚数は61ページをご覧ください。

画像に音声を記録する

ー ボイスメモ

モードダイヤル：(/S/A/M)*/SCN

静止画の撮影と同時に、音声を記録します。

* MVC-CD400のみ

1 モードダイヤルを「」、「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［MODE］（撮影モード）、▲/▼で［ボイスメモ］を選ぶ

4 撮影する

「記録中」の文字が消えると、次の撮影ができます。

シャッターをポンと1回押すと

5秒間音声が記録されます。

シャッターを押し続けると

押し続けている間、音声が記録されます（最長40秒間）。

通常撮影に戻すには

手順3で［通常撮影］を選んでください。

- ボイスメモの撮影枚数は61ページをご覧ください。

画像に特殊効果を加えて撮る

– ピクチャーエフェクト

モードダイヤル：(/S/A/M)*/SCN/

画像に特殊効果を加え、メリハリをつけることができます。

ソラリ

明暗をはっきりさせたイラストのように

モノトーン

白黒に

セピア

古い写真のような色合いに

ネガアート

写真のネガフィルムのように

* MVC-CD400のみ

1 モードダイヤルを「」、「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」、「」のいずれかにする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［PFX］（P.エフェクト）、▲/▼で希望のモードを選ぶ

ピクチャーエフェクトを解除するには

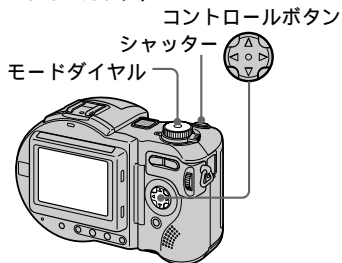
手順3で［切］を選んでください。

画像を記録するかどうかを確認する

ー 書き込み確認

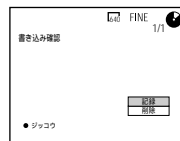
モードダイヤル：(/S/A/M)*/SCN/

撮影した画像を本機に一時的に保存し、撮影した画像をディスクに書き込むかどうかを確認することができます。不要な画像をディスクに記録する前に削除すればディスク残量は減りません。

* MVC-CD400のみ

1 モードダイヤルを「SET UP」にする

2 ▲/▼で［ (設定1)］、▶/▲/▼で［書き込み確認］、▶/▲/▼で［入］を選び、●を押す

3 モードダイヤルを「」、「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」、［］のいずれかにする

4 撮影する

5 ［記録］または［削除］を選択する

［記録］を選んだとき

「記録中」と表示され、画像がディスクに記録されます。

［削除］を選んだとき

［実行］を選び、●を押すと画像はディスクに記録されません。
［キャンセル］を選び、●を押すと前の画面に戻ります。

ブラケットや3枚連写で撮影した画像の書き込みを確認するには

手順5で◀/▶を押して3枚の画像を順に表示させ、1枚ずつ記録するかどうかを確認できます。

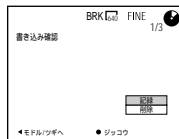
外部フラッシュを使う

モードダイヤル：(/S/A/M)*/SCN/

* MVC-CD400のみ

ソニー製専用フラッシュHVL-F1000を使う

本機のホットシューには、ソニー製の専用フラッシュHVL-F1000を取り付けて使用することができます。外付けフラッシュを使うと、より鮮明なフラッシュ撮影をすることができます。

*1 MVC-CD400
*2 MVC-CD250

1 **ホットシュー**（MVC-CD400）**またはアクセサリーシュー**（MVC-CD250）**に専用外付けフラッシュ**HVL-F1000**を取り付ける**

2 ACC**端子にフラッシュのプラグを差し込む**

3 HVL-F1000**の電源を入れる**

4 **撮影する**
このとき、内蔵フラッシュは発光しません。

市販のフラッシュを使う（MVC-CD400のみ）

本機のホットシューには、市販の外付けフラッシュを取り付けることもできます。

1 ホットシューに外付けフラッシュを取り付ける

2 モードダイヤルを「SET UP」にする

3 ▲/▼で［(設定1)］、▶/▲/▼で［ホットシュー］、▶/▲/▼で［入］を選び、●を押す

4 市販の外付けフラッシュの電源を入れる

詳しくは、お使いのフラッシュに付属の取扱説明書をご覧ください。

5 モードダイヤルを「M」または「A」にする

モードダイヤルが「」、「S」、「SCN」でもフラッシュは発光しますが、フラッシュに自動調光の機能がない（フル発光の）場合は、「M」または「A」での撮影をおすすめします。

6 撮影する

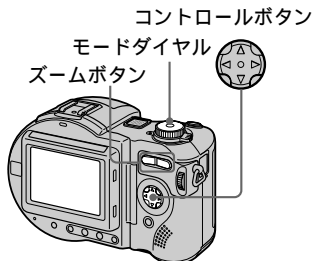
ご注意

- 絞り数値は、ご使用のフラッシュのガイドナンバーと被写体との距離から最も適した値を設定してください。
- フラッシュのガイドナンバーは、カメラのISO感度で変わります。ISO感度をご確認ください。
- 3枚連写、ブラケット、夜景モード、動画（MPEGムービー）、マルチ連写ではフラッシュは発光しません。
- 他社の特定のカメラ専用とされているフラッシュ（一般にホットシューに複数の接点を持つフラッシュ）、高圧タイプのフラッシュ、およびフラッシュ用の付属品を使用すると、カメラが正常な機能を発揮しなかったり、故障の原因となることがありますのでご注意ください。
- 内蔵フラッシュを使うとき、または専用の外部フラッシュを使用するときは、［ホットシュー］を［切］にしてください。

静止画の一部を拡大する

画像を拡大する – 再生ズーム

モードダイヤル：▶

撮影した画像を元の画像の5倍まで拡大することができます。また、拡大した画像を新しいファイルとして記録することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 拡大したい画像を表示する

3 ズームTボタンを押して、画像を拡大する

4 コントロールボタンを繰り返し押して、拡大したい部分を選ぶ

▲：画像の上側を見るとき
▼：画像の下側を見るとき
◀：画像の左側を見るとき
▶：画像の右側を見るとき

5 ズームTボタンを繰り返し押して、手順4で選んだ部分を拡大する

拡大表示をやめるには

中央の●を押してください。

- 動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写で撮影した画像は再生ズームできません。
- 拡大していない画像が表示されているときにズームWボタンを押すと、インデックス画面に切り換わります（**別冊基本編** → 34ページ）。
- クイックレビュー（**別冊基本編** → 24ページ）で表示した画像も、手順3から5の操作で拡大することができます。

拡大した画像を記録する

– トリミング

1 再生ズーム後にMENUボタンを押す

2 ▶で［トリミング］を選び、中央の●を押す

3 ▲/▼で画像サイズを選び、中央の●を押す

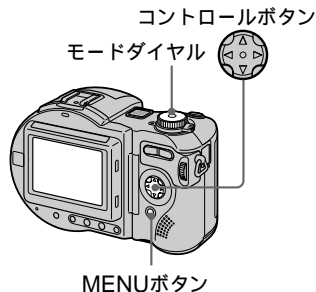
画像が記録され、拡大前の画像表示に戻ります。

- トリミングした画像は一番新しいファイルとして記録され、元の画像は残ります。
- トリミングした画像は画質が劣化する場合があります。
- 3:2の画像サイズにトリミングすることはできません。
- 非圧縮画像（TIFF画像）はトリミングできません。
- トリミングするとディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、トリミングできないことがあります。

連続して再生する

– スライドショー

モードダイヤル：▶

撮影した画像を順番に再生します。画像のチェックやプレゼンテーションなどに便利です。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［スライドショー］を選び、中央の●を押す

下記の設定を選んでください。

間隔設定

5秒／10秒／30秒／1分

繰り返し

入： 繰り返し再生されます（約20分）*。

切： すべての画像が再生されると、スライドショーは終了します。

* すべての画像をひととおり再生し終わるまでは、20分をこえても終了しません。

4 ▲/▼/▶で［スタート］を選び、中央の●を押す

スライドショーが始まります。

スライドショーの設定を中止するには

手順3で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

スライドショーの再生を中止するには

中央の●を押して、▶で［終了］を選び、●を押してください。

スライドショー再生中に画面を送る／戻すには

▶（送り）または◀（戻し）を押してください。

- ［間隔設定］の設定時間は目安です。再生画像のサイズなどにより、変わることがあります。

静止画を回転する

モードダイヤル：▶

カメラを縦にして撮影した画像を、回転して表示することができます。

1 モードダイヤルを「▶」にして、回転させたい画像を表示する

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［回転］を選び、中央の●を押す

4 ▲/▼で［↶ ↷］を選び、◀/▶で画像を回転させる

5 ▲/▼で［実行］を選び、中央の●を押す

回転を中止するには

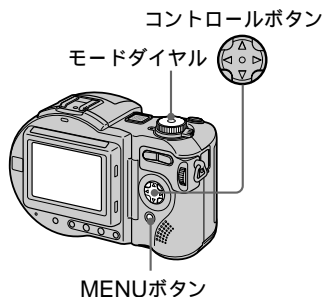
手順4で［キャンセル］選び、中央の●を押してください。

- プロテクトされている画像（32ページ）／動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写／非圧縮画像（TIFF画像）で撮影した画像は回転できません。
- 他機で撮影した画像は本機では回転できないことがあります。
- パソコンで画像を見るとき、ソフトウェアによっては画像の回転情報が反映されない場合があります。
- 回転するとディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、回転できないことがあります。

画像を保護する

– プロテクト

モードダイヤル：▶

大切な画像を誤って消さないように保護します。CD-RWの画像は、プロテクトされていてもフォーマット（**別冊基本編 ➡39**ページ）すると消去されます。

- プロテクトするとディスク残量は減ります。プロテクトマークを消してもさらに減ります。
- ディスク残量が少ない場合、プロテクトできないことがあります。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でプロテクトをかけたい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［プロテクト］を選び、中央の●を押す

表示されている画像にプロテクトがかかり、O━ (プロテクト）マークがつきます。

プロテクト指定を解除するには

手順4でもう一度中央の●を押してください。O━マークが消えます。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを1回押してインデックス（9枚表示）画面にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［プロテクト］を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

5 プロテクトしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像にO━（プロテクト）マークがつきます。

6 他の画像もプロテクトするときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

8 ▶で［実行］を選び、中央の●を押す

選択した画像にプロテクトがかかります。

プロテクトを中止するには

手順4で［キャンセル］を、または手順8で［終了］を選び、中央の●を押してください。

プロテクト指定を解除するには

手順5でプロテクトを解除したい画像をコントロールボタンで選び、中央の●を押してください。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返します。次にMENUボタンを押し、［実行］を選び、中央の●を押してください。

すべての画像をプロテクトするには

手順4で［全画像］を選び、中央の●を押します。次に［入］を選び、中央の●を押してください。

すべての画像のプロテクト指定を解除するには

手順4で［全画像］を選び、中央の●を押します。次に［切］を選び、中央の●を押してください。

インデックス（3枚表示）画面のとき

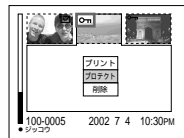
1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを2回押して、インデックス（3枚表示）画面にする

2 ◀/▶でプロテクトをかけたい画像を中央に表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ▲/▼で［プロテクト］を選び、中央の●を押す

画面中央の画像にプロテクトがかかり、⊶（プロテクト）マークがつきます。

5 他の画像もプロテクトするときは、◀/▶でプロテクトをかけたい画像を中央に表示し、手順4を繰り返す

静止画を編集する

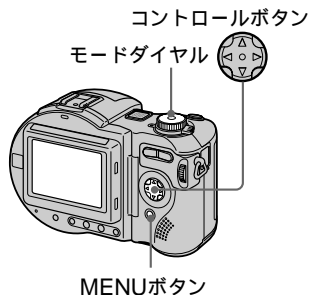
プロテクト指定を解除するには

手順4でプロテクトを解除したい画像を選び、中央の●を押します。プロテクトを解除したいすべての画像について繰り返してください。

画像のサイズを変える

– リサイズ

モードダイヤル：▶

撮影した画像のサイズを変えて、新しいファイルとして記録できます。
下記のサイズに変えられます。
2272×1704（MVC-CD400のみ)、1600×1200、1280×960、640×480
リサイズした後も元の画像はそのまま残ります。

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でサイズを変えたい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［リサイズ］を選び、中央の●を押す

5 ▲/▼で変更したいサイズを選び、中央の●を押す

リサイズを中止するには

手順5で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

- リサイズした画像は一番新しいファイルとして記録され、元の画像は残ります。
- 動画（MPEGムービー）／クリップモーション／マルチ連写／非圧縮画像（TIFF画像）で撮影した画像はリサイズできません。
- 小さいサイズから大きいサイズにリサイズすると、画像が劣化します。
- 3:2の画像サイズにリサイズすることはできません。
- 3:2の画像をリサイズすると、画像の上下に黒い帯が入ります。
- リサイズするとディスク残量は減ります。
- ディスク残量が少ない場合、リサイズできないことがあります。

プリントしたい画像を選ぶ
– プリントマーク

モードダイヤル：▶

プリントしたい画像を指定します。DPOF（Digital Print Order Format）規格に対応しているお店で画像をプリントするときなどに便利です。

- 動画（MPEGムービー）／クリップモーションで撮影した画像はプリントマークはつけられません。
- Eメールモードのときは、同時に記録された通常サイズの画像にプリントマークがつきます。
- マルチ連写で撮影した画像は16分割された1枚の画像としてプリントマークがつきます。
- TIFFモードで撮影した画像にプリントマークを付けると、非圧縮画像のみプリントされ、同時に記録されたJPEG画像はプリントされません。
- プリントマークをつけるとディスク残量は減ります。プリントマークを消してもさらに減ります。
- ディスク残量が少ない場合、プリントマークをつけられないことがあります。
- DPE店でプリントするときはディスクをファイナライズしてください（**別冊基本編** ➡ 41ページ）。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶でプリントしたい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［プリント］を選び、中央の●を押す

表示されている画像に 🖨✓（プリント）マークがつきます。

プリントマークを消すには

手順4でもう一度中央の●を押してください。🖨✓ マークが消えます。

静止画を編集する

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを1回押してインデックス（9枚表示）画面にする**

2 MENU**ボタンを押す**
メニューが表示されます。

3 **◀/▶で［プリント］を選び、中央の●を押す**

4 **◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す**
- ［全画像］を選ぶことはできません。

5 **プリントしたい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す**
選んだ画像に（プリント）マークがつきます。

6 **他の画像もプリントするときは、手順5を繰り返す**

7 MENU**ボタンを押す**
メニューが表示されます。

8 **▶で［実行］を選び、中央の●を押す**
マークの設定が完了します。

プリントマークを消すには

手順5でマークを消したい画像を選び、中央の●を押してください。

すべての画像のプリントマークを消すには

手順4で［全画像］を選び、中央の●を押します。次に［切］を選び、中央の●を押してください。

プリントマークを中止するには

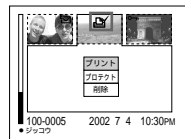
手順4で［キャンセル］を、または手順8で［終了］を選び、中央の●を押してください。

インデックス（3枚表示）画面のとき

1 **モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを2回押して、インデックス（3枚表示）画面にする**

2 **◀/▶でプリントしたい画像を中央に表示する**

3 MENU**ボタンを押す**
メニューが表示されます。

4 **▲/▼で［プリント］を選び、中央の●を押す**
画面中央の画像に（プリント）マークがつきます。

5 **他の画像もプリントするときは、◀/▶でプリントしたい画像を中央に表示し、手順4を繰り返す**

プリントマークを消すには

手順4でもう一度中央の●を押してください。マークが消えます。

動画を撮る

モードダイヤル：🎞

音声つきの動画（MPEGムービー）を撮影できます。

操作の前に

SET UPの［動画選択］を［MPEGムービー］にしておきます（5、69ページ）。

1 モードダイヤルを「🎞」にする

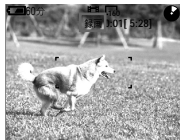
2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［画像サイズ］（画像サイズ）、▲/▼で希望のサイズを選ぶ

320 (HQX)、320×240、160×112から選べます。
各サイズによる記録時間については、62ページをご覧ください。

4 シャッターを深く押し込む

「録画」と表示され、画像と音声の記録が始まります。

- ディスクがいっぱいになると停止します。

5 録画を止めるには、シャッターをもう一度深く押し込む

撮影中の画面上の表示は

- 画像には記録されません。
- DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFFボタンを押すたびに、画面表示オフ→バックライトオフ→画面表示オンの順で変わります。
- 表示される項目について詳しくは、80ページをご覧ください。

近接（マクロ）撮影する

モードダイヤルを「🎞」にしてから、**別冊基本編** ➡ 25ページの手順に従ってください。

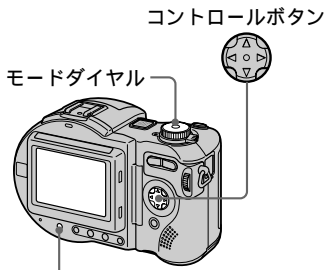
セルフタイマーで撮影する

モードダイヤルを「🎞」にしてから、**別冊基本編** ➡ 26ページの手順に従ってください。

- フラッシュは使えません。
- 日付・時刻は挿入されません。
- 動画（MPEGムービー）撮影時、マルチポイントAFを選ぶと画面中央部分を平均的に測距し、手振れに強いAFが可能です。中央重点AF（MVC-CD250）、測距枠選択モード（中央、右、左、上、下）（MVC-CD400）は測距枠のみでAFを合わせるので狙った部分のピント合わせに便利です。

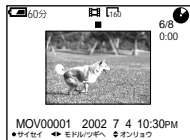
液晶画面で動画を見る

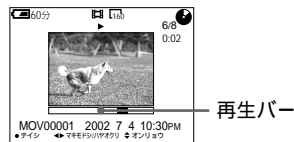
モードダイヤル：▶

本機の液晶画面で動画を見ることができます。音声も本機のスピーカーから聞こえます。

DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFF**ボタン**

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で見たい動画を選ぶ

動画は静止画よりもひとまわり小さく表示されます。

3 中央の●を押す

動画と音声が再生されます。
再生中は▶（再生）が液晶画面に表示されます。

再生を止めるには

中央の●を押してください。

巻き戻し／早送りをするには

再生中に◀/▶を押します。
通常の再生に戻るには、中央の●を押してください。

音量を調節するには

▲/▼を押してください。

高画質撮影した動画は

画像サイズ［320（HQX）］で撮影した動画は画面いっぱいに表示されます。

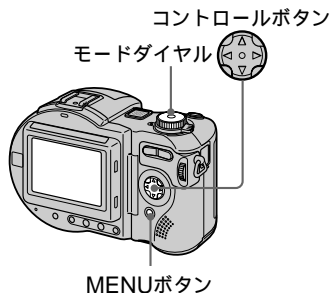
動画再生中の画面上の表示は

- DISPLAY/LCD BACK LIGHT ON/OFFボタンを押すたびに、画面表示オフ→バックライトオフ→画面表示オン の順で変わります。
- 表示される項目について詳しくは、81ページをご覧ください。

- 動画をテレビで見る方法は、静止画と同じです（**別冊基本編** ➡ 35ページ）。

動画を削除する

モードダイヤル：▶

不要な動画を削除します。

- CD-Rでは画像を消してもディスク残量は増えません。
- CD-RWでは🔄が液晶画面に出ている場合に限り、その時点で最新の画像を消すとディスク残量は元に戻ります。画像を加工したり、ディスクカバーを開閉したりすると🔄は消えます。
- ディスク残量が少ない場合、削除できないことがあります。

シングル画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にする

2 ◀/▶で削除したい画像を表示する

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 ◀/▶で［削除］を選び、中央の●を押す

この時点ではまだ削除されていません。

5 ▲で［実行］を選び、中央の●を押す

「アクセス中」と表示されます。表示が消えると、画像が削除されます。

削除を中止するには

手順5で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

インデックス（9枚表示）画面のとき

1 モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを1回押してインデックス（9枚表示）画面にする

2 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

3 ◀/▶で［削除］を選び、中央の●を押す

4 ◀/▶で［選択］を選び、中央の●を押す

5 削除したい画像を▲/▼/◀/▶で選び、中央の●を押す

選んだ画像に🗑マークがつきます。

この時点ではまだ削除されていません。

6 他の画像も削除するときは、手順5を繰り返す

7 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

8 **◀/▶で［実行］を選び、中央の●を押す**

「アクセス中」という表示が消えると、画像が削除されます。

削除を中止するには

手順**8**で［終了］を選び、中央の●を押してください。

すべての画像を削除するには

手順**4**で［全画像］を選び、中央の●を押します。削除を中止するときは、◀/▶で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

インデックス（3枚表示）画面のとき

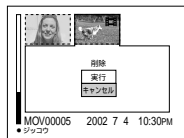
1 **モードダイヤルを「▶」にして、ズームWボタンを2回押してインデックス（3枚表示）画面にする**

2 **◀/▶で削除したい画像を中央に表示する**

3 MENUボタンを押す

メニューが表示されます。

4 **［削除］が選ばれていることを確認し、中央の●を押す**

この時点ではまだ削除されていません。

5 **▲で［実行］を選び、中央の●を押す**

「アクセス中」という表示が消えると、画面中央の画像が削除されます。

削除を中止するには

手順**5**で［キャンセル］を選び、中央の●を押してください。

動画をパソコンのディスクドライブで見る

ディスクをファイナライズしておきます（**別冊基本編** ➡ 41ページ）。

- 本機で撮影した動画（音声）データはMPEG形式で保存されています。対応したアプリケーション（Windows Media Playerなど）がパソコンにインストールされていることをご確認ください。
- CD-RWに記録された画像をディスクドライブで見る場合は、ドライブがマルチリード（MultiRead）に対応している必要があります。
- ファイルをパソコンのハードディスクにコピー（ドラッグ＆ドロップ）してから再生することをおすすめします。ディスクから直接再生すると、画像や音声が途切れることがあります。

Windowsの場合

1. **パソコンを起動し、ファイナライズしたディスクをパソコンのディスクドライブに入れる**
2. **デスクトップ画面上の（マイ コンピュータ）をダブルクリックする**
   「マイ コンピュータ」画面が表示されます。
3. **ディスクを入れたドライブ（例：［MV_20020101 (E:)］）をダブルクリックする**
   ディスクの内容が表示されます。
4. **（MSSONY）をダブルクリックする**
   「MSSONY」フォルダの内容が表示されます。
5. **（MOML0001）をダブルクリックする**
   「MOML0001」フォルダの内容が表示されます。
6. **再生したいファイルをダブルクリックする**
   画像が開きます。

「ImageMixer」をインストールする

本機に付属のCD-ROMに入っているソフトウェア「PIXELA ImageMixer for Sony（ピクセラ イメージミキサー フォー ソニー）」を使うと、本機で撮影した静止画をお使いのパソコンで手軽に楽しめます。

- パソコンを使用中の場合には、使用中のソフトウェアをすべて終了させてください。

ImageMixerに関するお問い合わせ
ピクセラユーザーサポートセンター
電話：072-224-0181
受付時間：月〜日曜日　午前9時〜午後5時
（ただし、年末・年始・祝日を除く）
URL: http://www.imagemixer.com

Windowsの場合

1 パソコンの電源を入れる

- Windows 2000をお使いのかたは、Administrators（管理者権限）、またはPower users（標準ユーザー）でログオンしてください。
- Windows XPをお使いのかたは、コンピュータの管理者権限でログオンしてください。

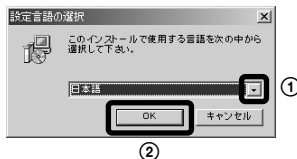
2 付属のCD-ROMを、パソコンのディスクドライブにセットする

しばらくすると、タイトル画面が表示されます。

タイトル画面が表示されないときは、デスクトップ画面上の（マイコンピュータ）→［ImageMixer］の順にダブルクリックしてください。

3 タイトル画面の中の「PIXELA ImageMixer」の部分に（ポインタ）を動かし、クリックする

「設定言語の選択」画面が表示されます。

4 ［▼］をクリックして「日本語」を選び、［OK］をクリックする

「PIXELA ImageMixer用のInstallShieldウィザードへようこそ」画面が表示されます。

5 画面の指示に従って操作する

インストールが終了すると、インストール画面が閉じます。

6 タイトル画面の［DirectX］をクリックする

「Microsoft DirectX8.0のセットアップ」画面が表示されます。

- Windows XPをお使いの方は、手順6～8は不要です。手順9に進んでください。

7 ［はい］をクリックする

「DirectX®セットアップ」画面が表示されます。

8 ［インストール］をクリックする

「DirectX」のインストールが始まります。インストールが終わったら、［OK］をクリックして、パソコンを再起動してください。

9 パソコンからCD-ROMを取り出す

「ImageMixer」で画像を取り込む

「PIXELA ImageMixer for Sony」を使って、ファイナライズしたディスクからパソコンに画像を取り込みます。

Windowsの場合

ここでは、「マイドキュメント」フォルダに画像をコピーします。

1 「ImageMixer」を起動する

デスクトップ画面上の(PIXELA ImageMixer Ver.1.0 for Sony)をダブルクリックします。
「ImageMixer」が起動し、メイン画面が表示されます。

2 をクリックする

画像を取り込むための画面が表示されます。

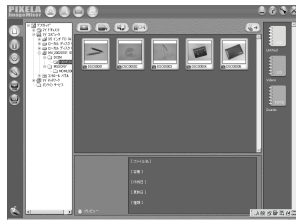
3 画像をパソコンに取り込む

① ファイナライズしたディスクをパソコンのディスクドライブに入れる。

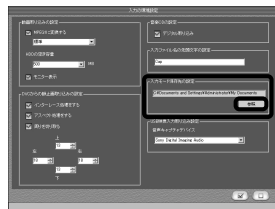
② 画面左上のをクリックする。

③ 表示されるツリーから、「マイコンピュータ」→「CD-ROMドライブ」（例：MV_20020101(E:)）→「DCIM」「MSSONY」の下のフォルダをクリックする

静止画の場合：100MSDCF
動画の場合：MOML001

ファイル名について詳しくは**別冊基本編** ➡ 47ページをご覧ください。

• 選択したフォルダ内の画像が表示されます。

④ 画面右上のをクリックする。
「入力の環境設定」画面が表示されます。

⑤「入力モード保存先の設定」で［参照］をクリックし、表示される「フォルダの参照」画面で［マイドキュメント］をクリックして、［OK］をクリックする。

⑥ をクリックする。

⑦ 画面右上のをクリックする。

⑧ パソコンに取り込む画像をクリックし、画面右上のをクリックする。
画像がパソコンに取り込まれます。

• 画像をにドラッグ＆ドロップすることもできます。

「ImageMixer」で画像を見る

43ページでパソコンに取り込んだ画像を「PIXELA ImageMixer for Sony」を使って見ます。

Windowsの場合

1 ◎をクリックする

静止画を見るための画面が表示されます。

2 表示したい画像をダブルクリックする

選んだ画像が表示されます。
動画の場合は、サムネイルが表示されます。

前の画面に戻るには

画面右上の ⓘ をクリックしてください。

- 「ImageMixer」を使うと、取り込んだ画像を編集することもできます。詳しくは、画面右上の ? をクリックして、ヘルプをご覧ください。

「ImageMixer」で静止画を印刷する

「PIXELA ImageMixer for Sony」で開いた静止画をプリンタで印刷します。
あらかじめプリンタとパソコンを接続し、両方の機器の電源を入れておきます。
プリンタの接続や設定などについて詳しくは、プリンタに付属の取扱説明書をご覧ください。

Windowsの場合

1 静止画を表示する

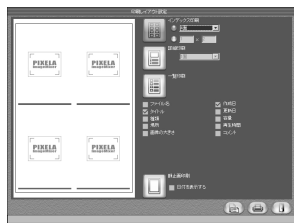
「『ImageMixer』で画像を見る」の手順1の操作を行ってください。

2 印刷したい静止画をクリックする

3 をクリックして表示されるメニューから［印刷］をクリックする

「印刷レイアウト設定」画面が表示されます。

4 レイアウトを設定する

お好みに応じて設定してください。

通常は画面下の をクリックします。

5 用紙の設定をする

① をクリックする。
「プリンタの設定」画面が表示されます。

② 用紙のサイズや印刷の向きを設定し、［OK］をクリックする。

6 印刷する

① をクリックする。
「印刷」画面が表示されます。

② ［OK］をクリックする。

静止画が印刷されます。

印刷できないときは

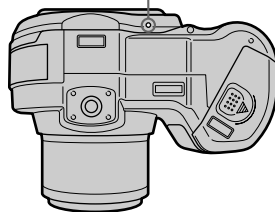
プリンタの接続や設定が正しいかどうか確認してください。詳しくは、お使いのプリンタに付属の取扱説明書をご覧ください。

故障かな？と思ったら

困ったときは、下記の流れに従ってください。

1 46～56ページの項目をチェックし、本機を点検する

液晶画面に「C：□□：□□」のような表示が出たときは自己診断表示機能が働いています。59ページをご覧ください。

2 本体底面にあるRESETボタンを押してから、電源を入れる
（この操作を行うと、日時などの設定は解除されます）

3 デジタルイメージングカスタマーサポートのホームページを確認する（裏表紙）

4 テクニカルインフォメーションセンターに電話で問い合わせる（裏表紙）

バッテリー・電源

症状	原因	処置
バッテリーを充電できない。	• 本機の電源が入っている。	→ 電源を切る（**別冊基本編** ➞ 15ページ）。
バッテリーの残量表示が正しくない。またはバッテリー残量表示が充分なのに電源がすぐ切れる。	• 温度が極端に高いまたは低いところで長時間使用している。 • バッテリーそのものの寿命（75ページ）。 • バッテリーが消耗している。 • 残量表示機能と実際の残量にズレが生じた。	— → 新しいバッテリーと交換する。 → 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ➞ 10ページ）。 → 満充電すると、残量表示機能が正しくなる（**別冊基本編** ➞ 12ページ）。

バッテリー・電源（つづき）

症状	原因	処置
バッテリーの消耗が早い。	• 温度が極端に低いところで撮影／再生している。 • 充電が不充分。 • バッテリーそのものの寿命（75ページ）。	— ➔ 満充電する（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。 ➔ 新しいバッテリーと交換する。
バッテリー充電中、ϟ/CHGランプが点滅する。	• バッテリーが故障している。	➔ テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。
バッテリー充電中、ϟ/CHGランプが点灯しない。	• ACパワーアダプターがはずれている。 • バッテリーが正しく取り付けられていない。 • 充電が完了している。	➔ 電源をきちんと接続する（**別冊基本編** ➡ 11ページ）。 ➔ 正しく取り付ける（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。 —
電源が入っているのに操作できない。	—	➔ バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを取り付け、電源を入れる。それでも操作できないときは、本機底部のRESETボタンを先のとがったもので押す。（この操作をすると、日時が解除されます。）
電源が入らない。	• バッテリーが正しく取り付けられていない。 • ACパワーアダプターがはずれている。	➔ バッテリーを正しく取り付ける（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。 ➔ きちんと接続し直してください（**別冊基本編** ➡ 14ページ）。
電源が途中で切れる。	• 操作しない状態が3分以上続くと、バッテリーの消耗を防ぐため、自動的に電源が切れる。（**別冊基本編** ➡ 15ページ） • バッテリーが消耗している。	➔ 電源を入れ直すか（**別冊基本編** ➡ 15ページ）ACパワーアダプターを使う（**別冊基本編** ➡ 14ページ）。 ➔ 充電されたバッテリーを取り付ける（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。

静止画／動画を撮る

症状	原因	処置
電源を入れても液晶画面がつかない。	• 前回使用時、バックライトオフで電源を切った。	→ バックライトをオンにする（**別冊基本編** ➡ 24ページ）。
液晶画面に被写体が写らない。	• モードダイヤルが「▶」または「SET UP」になっている。	→ モードダイヤルを「📷」または「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」、「🎞」にする（**別冊基本編** ➡ 22ページ、本書37ページ）。 * MVC-CD400のみ
フォーカスが合わない。	• 被写体が近すぎる。 • 静止画撮影時、シーンセレクションが風景モードかポートレートモードになっている。 • フォーカスプリセットの状態になっている。 • SET UPの［コンバージョンレンズ］が［入］になっている（MVC-CD400のみ）。	→ 4cm～50cm（MVC-CD400）または3cm～50cm（MVC-CD250）で撮影するときは、マクロ撮影モードにする。マクロ撮影モードをお使いの場合でも、最短撮影距離よりもカメラを離して撮影してください（**別冊基本編** ➡ 25ページ）。 → 解除する（**別冊基本編** ➡ 30ページ）。 → 解除する。 →［切］にする（5、70ページ）。
ズームできない。	• SET UPの［コンバージョンレンズ］が［入］になっている（MVC-CD400のみ）。 • 動画（MPEGムービー）撮影中はできない（MVC-CD400のみ）。	→［切］にする（5、70ページ）。 —
デジタルズームができない。	• 動画（MPEGムービー）撮影中はできない。 • SET UPの［デジタルズーム］が［切］になっている。	— →［入］にする（5、69ページ）。

静止画／動画を撮る（つづき）

症状	原因	処置
画像が暗い。	• 逆光になっている。 • 液晶画面が暗い。 • バックライトがオフになっている。	→ 露出を補正する（14ページ）。 → SET UPの［LCD明るさ］で調節する（5、71ページ）。 → バックライトをオンにする。
画像が明るい。	• 舞台撮影など、暗いところでスポットライトが当たっている状態で撮影している。 • 液晶画面が明るい。	→ 露出を補正する（14ページ）。 → SET UPの［LCD明るさ］で調節する（5、71ページ）。
画像が白黒になる。	• ピクチャーエフェクトがモノトーンモードになっている。	→ 解除する（25ページ）。
明るい被写体を写すと、縦に尾を引いたような画像になる。	• スミアという現象。	→ 故障ではない。
撮影できない。	• ディスクが入っていない。 • ディスクの容量がない。 • ディスクがイニシャライズされていない。 • フラッシュ充電中は撮影できない。 • 静止画撮影時、モードダイヤルが「」または「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」になっていない。 * MVC-CD400のみ • 動画撮影時、モードダイヤルが「」になっていない。	→ ディスクを入れる（**別冊基本編** ➡ 18ページ）。 → 新しいディスクを入れる。CD-RWをお使いの場合はディスクをフォーマットする。 → ディスクをイニシャライズする（**別冊基本編** ➡ 19ページ）。 — → モードダイヤルを「」または「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」にする（**別冊基本編** ➡ 22ページ）。 → モードダイヤルを「」にする（37ページ）。
撮影で長時間かかる。	• NRスローシャッターが設定されている。	—

症状	原因	処置
内蔵および別売り専用（HVL-F1000）**フラッシュ撮影ができない。**	• モードダイヤルが「▶」、「SET UP」、「🎞」（MPEGムービー、マルチ連写）になっている。	➔ モードダイヤルを「▶」、「SET UP」、「🎞」以外にする。
	• 設定が🚫（発光禁止）になっている。	➔ オート（表示なし）または⚡（強制発光）にする（**別冊基本編** ➔ 27ページ）。
	• 静止画撮影時、[シーンセレクション] が [夜景モード] になっている。	➔ 解除する（**別冊基本編** ➔ 30ページ）。
	• 静止画撮影時、[シーンセレクション] が [風景モード] になっている。	➔ ⚡（強制発光）にする（**別冊基本編** ➔ 27ページ）。
	• [MODE]（撮影モード）が [3枚連写] または [ブラケット]（MVC-CD400のみ）になっている。	➔ それ以外の設定にする。
	• SET UPの [ホットシュー] が [入] になっている（MVC-CD400のみ）。	➔ [切] にする（5、70ページ）。
マクロ撮影ができない。	• [シーンセレクション] が [風景モード] になっている。	➔ 解除する（**別冊基本編** ➔ 30ページ）。
	• SET UPの [コンバージョンレンズ] が [入] になっている（MVC-CD400のみ）。	➔ [切] にする（5、70ページ）。
被写体の目が赤く写る。	—	➔ 赤目軽減モードにする（**別冊基本編** ➔ 28ページ）。
正しい撮影日時が記録されない。	• 日付・時刻が合っていない。	➔ 日付・時刻を合わせる（**別冊基本編** ➔ 16ページ）。

画像を見る

症状	原因	処置
再生できない。	• モードダイヤルが「▶」になっていない。 • パソコンのハードディスクにコピーしたファイルで名前変更したり、画像を加工したものは本機で再生できない。	→ モードダイヤルを「▶」にする（**別冊基本編** ➡ 33ページ）。 —
表示直後に再生画像が粗い。	—	→ 故障ではない。
テレビに画像が出ない。	• SET UPの［ビデオ出力信号］が［PAL］になっている。 • 接続が正しくない。	→ ［NTSC］にする（5、71ページ）。 → 接続を確認する（**別冊基本編** ➡ 35ページ）。
ノイズが入る。	• テレビなど強い磁気を帯びたものの近くに置いている。	→ テレビなどから離して置く。
パソコンで再生できない。	—	→ 53ページをご覧ください。

画像を削除する／編集する

症状	原因	処置
削除できない。	• 画像がプロテクトされている。 • ディスクがイニシャライズされていない。 • ディスク残量が少ない。	→ 画像のプロテクトを解除する（32ページ）。 → ディスクをイニシャライズする（**別冊基本編** ➡ 19ページ）。 → 故障ではない。
誤って消してしまった。	• 一度削除したファイルは元に戻せない。	→ 画像にプロテクトをかけると、誤消去を防げます（32ページ）。
リサイズができない。	• 動画（MPEGムービー）／クリップモーション画像／マルチ連写画像／非圧縮画像はリサイズできない。 • ディスク残量が少ない。	— → 故障ではない。
プリントマークがつかない。	• 動画（MPEGムービー）／クリップモーション画像にはプリントマークをつけられない。 • ディスク残量が少ない。	— → 故障ではない。

パソコン

症状	原因	処置
対応しているOSが分からない。	—	➔「パソコンの推奨使用環境」を確認する（**別冊基本編** ➡ 50ページ）。
本機がパソコンに認識されない。	• 本機の電源が入っていない。	➔ 本機の電源を入れる（**別冊基本編** ➡ 15ページ）。
	• バッテリー残量が少ない。	➔ 外部電源、または充電されたバッテリーを使用する（**別冊基本編** ➡ 14ページ）。
	• 付属のUSBケーブルを使っていない。	➔ 付属のUSBケーブルを使う。
	• USBケーブルがしっかり差し込まれていない。	➔ 一度パソコンと本機からケーブルを抜いて、しっかりと差し込み、「USBモード」になっていることを確認する（**別冊基本編** ➡ 56ページ）。
	• パソコンのUSB端子に本機の他に機器が接続されている。	➔ キーボード／マウス以外は取りはずす。
	• PIXELA PTP Managerがインストールされていない。	➔ PIXELA PTP Managerをインストールする（**別冊基本編** ➡ 51ページ）。
	• 付属のCD-ROMから「PIXELA PTP Manager」をインストールする前に、USBケーブルで本機とパソコンを接続したため、デバイスが正しく認識されていない。	➔ 正しく認識されなかったデバイスを削除してから、PIXELA PTP Managerをインストールする（**別冊基本編** ➡ 51、61ページ）。
画像をコピーできない。	• 本機とパソコンの接続が正しくない。	➔ 本機とパソコンを正しくUSB接続する（上記の参照ページ）。
	• お使いのOSに合わない手順をとっている。	➔ お使いのOSに対応した手順でコピーする（**別冊基本編** ➡ 49ページ）。
	—	➔「PIXELA ImageMixer for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、43ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。

パソコン（つづき）

症状	原因	処置
画像を再生できない。	— —	➔「PIXELA ImageMixer for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、44ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。 ➔ パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
パソコンのディスクドライブで再生できない。	• ディスクがファイナライズされていない。 • 画像記録中の振動などでエラーが発生した。 • ディスクドライブがパケットライトに対応していない。 • ディスクドライブがマルチリードに対応していない。 • ディスクに傷、ゴミ、汚れがついたとき。 • 上記の原因に当てはまらないとき。	➔ ディスクをファイナライズする（**別冊基本編** ➡ 41ページ）。 ➔ ディスクを本機に入れて、USB接続すれば再生できる場合があります。 ➔ パソコンメーカーまたはディスクドライブメーカーにお問い合わせください。 ➔ パソコンメーカーまたはディスクドライブメーカーにお問い合わせください。 ➔ ゴミ、汚れはきれいにする。傷のついたディスクは交換する。 ➔ パソコンメーカーまたはソフトウェアメーカーにお問い合わせください。
動画を再生すると画像が途切れる。	• ディスクから直接再生している。	➔ パソコンのハードディスクに動画をコピーをして、ハードディスクのファイルを再生する（41ページ）。
画像を印刷できない。	—	➔ お使いのプリンターの設定を確認してください。 ➔「PIXELA ImageMixer for Sony」ソフトウェアをお使いの場合は、44ページをご覧になるか、ヘルプをご覧ください。

ディスク

症状	原因	処置
記録できない。	• ディスクの容量がいっぱいになっている。 • ディスクがイニシャライズされていない。 • ディスクが正しく入っていない。	→ 新しいディスクを入れる。CD-RWをお使いの場合はフォーマットする。（**別冊基本編** ➡ 39ページ）。 → イニシャライズする（**別冊基本編** ➡ 19ページ）。 → ディスクを正しく入れる（**別冊基本編** ➡ 18ページ）。

その他

症状	原因	処置
操作を受け付けない。	•“ インフォリチウム ”以外のバッテリーを使用している。 • バッテリーが残り少ない（表示が出る）。 • ACパワーアダプターがしっかり差し込まれていない。 • 内部システムの誤動作。	→“ インフォリチウム ”バッテリーを使う（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。 → 充電する（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。 → DC IN端子とコンセントにしっかり差し込む（**別冊基本編** ➡ 14ページ）。 → 電源を切り、1分後に電源を入れて、正しく動作するか確認する。
電源が入っているのに操作できない。	• 内部システムの誤動作。	→ バッテリーを取りはずし、約1分後再びバッテリーを取り付け、電源を入れる。これでも操作できないときは、本体底面のRESETボタンを先の細いもので押してから、電源を入れる。（この操作をすると日時などの設定が解除されます。）
液晶画面上の表示の意味が分からない。	—	→ 表示の種類を確認する（79ページ）。
電源を切ってもレンズが収納されない（MVC-CD400**のみ）。**	• バッテリーが消耗している。	→ 満充電されたバッテリーを取り付けるか、外部電源を使用する（**別冊基本編** ➡ 10、14ページ）。

その他（つづき）

症状	原因	処置
レンズがくもる。	• 結露している。	→ 電源を切り、約1時間室温で放置してから使用する（73ページ）。
再生画が小さい。	• 他機で撮影した2272×1704（MVC-CD400）、1600×1200（MVC-CD250）より大きい画像サイズのファイルを再生しようとした。	—
ファイルを再生するとファイルエラーになる。	• ファイルに異常がある。 • 正しく記録されていない。 • ディスクが汚れている。 • ディスクに傷がついている。	— — → ゴミ、汚れはきれいにする。 → 別のディスクを使う。

警告表示について

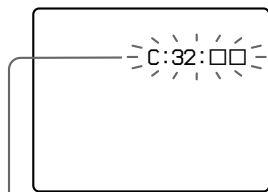
液晶画面には次のような表示が出ることがあります。

表示	意味／処置
レンズキャップが付いています（MVC-CD400**のみ**）	• レンズキャップが付いている。
ふたが開いています	• ディスクカバーが開いている。
ディスクがありません	• ディスクが入っていない。ディスクを入れてください（**別冊基本編** ➡ 18ページ）。
ドライブエラー	• ドライブの異常。
システムエラー	• ドライブまたは本機の異常。
ディスクエラー	• 本機では使えないディスクが入っている、ディスクが壊れている、または振動、汚れ等でディスクが読めない。
結露しています	• 結露が起きている。約1時間放置してから使用してください（73ページ）。
ディスクがプロテクトされています	• パソコンでプロテクトされたため、記録ができない。またはカメラによって自動的にプロテクトされた。
フォルダーエラー	• ディスク内に同じフォルダーが存在する。
ディスクの残量が充分ではありません	• ディスクの容量がいっぱいでファイナライズしかできない。
イニシャライズされていません	• イニシャライズされていないため記録できない。ディスクをイニシャライズしてください（**別冊基本編** ➡ 19ページ）。
イニシャライズされています	• すでにイニシャライズされているので、イニシャライズする必要はない。

表示	意味／処置
ファイナライズされています	• すでにファイナライズされているので、ファイナライズする必要はない。
ファイルがありません	• 画像が記録されていない。
ファイルエラー	• 画像再生時の異常。
画像サイズオーバーです	• 本機で再生できるサイズより大きい画像を再生しようとしている。
無効な操作です	• 本機以外で作成したファイルを再生しようとしている。
ファイルがプロテクトされています	• 画像に誤消去防止がかけられている。
“ インフォリチウム ”バッテリーを使ってください	• “ インフォリチウム ”対応以外のバッテリーを使っている。
バッテリーの残量が充分ではありません	• バッテリーの残量が少ないためイニシャライズ／ファイナライズできない。
(バッテリー残量表示マーク)	• バッテリーの残量が少ない。バッテリーを充電してください（**別冊基本編** ➡ 10ページ）。ご使用状況によっては、バッテリーの残量が5分から10分でも点滅することがあります。
アンファイナライズできません	• CD-Rが入っている。またはファイナライズされていないディスクが入っている。
フォーマットできません	• CD-Rが入っている。
フォーマットエラー	• 本機以外でフォーマットしたディスクを入れた。
電源を入れ直してください	• レンズの異常（MVC-CD400のみ）。
(手ぶれ警告マーク)	• 光量が不足している。シャッタースピードが遅い設定になっている。 • 手ぶれが起こりやすい状況になっている。フラッシュを使うか、三脚などでカメラをしっかり固定してください。

自己診断表示

ー アルファベットで始まる表示が出たら

本機には自己診断機能がついています。これは本機に異常が起きたときに液晶画面にアルファベットと4桁の数字でお知らせする機能です。表示によって、異常の内容が分かるようになっています。
詳しくは右の表をご覧になり、各表示に合った対応をしてください。表示の末尾2桁（□□）の数字は、本機の状態によって変わります。

自己診断表示

表示	原因	対応のしかた
C:32:□□	ハードウェア、もしくはズーム機能の異常。	• 電源を入れ直す （**別冊基本編** ➡ 15ページ）。
C:13:□□	データが読めない／書けない。	• ゴミ、汚れを取る。
	本機では使えないディスクを入れた。または、データが壊れている。	• ディスクを交換する （**別冊基本編** ➡ 18ページ）。
E:61:□□ E:91:□□	何らかの異常が起きている。	• 本体底面のRESETボタン（46ページ）を押してから、電源を入れる。

「対応のしかた」を2、3度繰り返しても正常に戻らないときは、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。その際、表示の5桁のすべてをお知らせください。
例:E:61:10

記録枚数／時間について

画像サイズと画質の設定（**別冊基本編** ➡ 20ページ）以外にも、撮影目的に合わせて、撮影モードを選ぶことができます。

静止画

撮影モード	**説明**
通常撮影	通常の静止画を撮影します（**別冊基本編** ➡ 22ページ）。
Eメール	Eメールの添付に適した、容量の少ない画像を撮影できます（24ページ）。
TIFF	写真画質でプリントする画像を撮影できます（23ページ）。
ボイスメモ	静止画の撮影時に、音声もいっしょに記録できます（25ページ）。
ブラケット（MVC-CD400のみ）	露出をかえて3枚の画像を撮影できます（18ページ）。
3枚連写	3枚の画像を連続撮影できます（23ページ）。

動画

撮影モード	**説明**
MPEGムービー	動画を撮影できます（37ページ）。
クリップモーション	ホームページに載せたり、Eメールに添付したりする連続した静止画を撮影できます（20ページ）。
マルチ連写	一度に16コマの画像を連写できます（21ページ）。

静止画の記録枚数

撮影モード		画像サイズ					
		2272×1704 (MVC-CD400のみ)	2272(3:2) (MVC-CD400のみ)	1600×1200	1600 (3:2) (MVC-CD250のみ)	1280×960	640×480
通常撮影	スタンダード	約119枚	約119枚	約235枚	約235枚	約347枚	約1291枚
	ファイン	約66枚	約66枚	約131枚	約131枚	約195枚	約658枚
Eメール	スタンダード	約114枚	約114枚	約215枚	約215枚	約304枚	約849枚
	ファイン	約64枚	約64枚	約125枚	約125枚	約181枚	約520枚
TIFF (MVC-CD400)	スタンダード	約10枚	約11枚	約10枚	—	約10枚	約11枚
	ファイン	約9枚	約10枚	約10枚	—	約10枚	約11枚
TIFF (MVC-CD250)	スタンダード	—	—	約20枚	約22枚	約21枚	約22枚
	ファイン	—	—	約19枚	約21枚	約20枚	約21枚
ボイスメモ*	スタンダード	約110枚	約110枚	約201枚	約201枚	約278枚	約672枚
	ファイン	約63枚	約63枚	約120枚	約120枚	約171枚	約448枚

* 音声記録5秒の場合

動画の記録枚数／時間

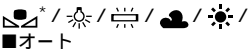
撮影モード	画像サイズ					画質	
	320 (HQ)	320×240	160×112	**モバイル**	**ノーマル**	**スタンダード**	**ファイン**
MPEGムービー	約5分53秒	約23分38秒	約89分36秒	—	—	—	—
クリップモーション*	—	—	—	約949枚	約478枚*	—	—
マルチ連写	—	—	—	—	—	347枚	195枚

* 10コマ撮影した場合

- 記録枚数／時間は撮影状況によっては数値と異なる場合があります。

メニュー項目について

モードダイヤルの位置によって操作できる項目は変わります。画面には、設定可能な項目のみが表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

モードダイヤルが「📷」、「S」*、「A」*、「M」*、「SCN」のとき

項目	設定	意味
SCN	■🌙／👤🌙／▲／👥*	シーンセレクションを設定する（**別冊基本編** ➡ 30ページ）。（「SCN」モード以外の時は設定できません。）
☑(EV) **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	+2.0EV／+1.7EV／+1.3EV／+1.0EV／+0.7EV／+0.3EV／■0EV／–0.3EV／–0.7EV／–1.0EV／–1.3EV／–1.7EV／–2.0EV	露出を補正する（14ページ）。
F（フォーカス） **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり、フォーカスプリセットで距離を設定する。
WB **（ホワイトバランス）**	*／☀／／☁／☀／■オート	ホワイトバランスを設定する（19ページ）。
⊙（スポット測光） **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	入／■切	撮りたい被写体に露出を合わせる（15ページ）。
ISO	400／200／100／■オート	ISO感度を選ぶ。暗い場所や高速で移動する被写体の撮影には大きい数字を、高画質を得るには小さい数字を選ぶ。（「SCN」モードの時は設定できません。）

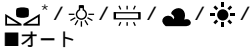
項目	設定	意味
（画像サイズ）	MVC-CD400 ■2272×1704／2272（3:2）／ 1600×1200／1280×960／ 640×480 MVC-CD250 ■1600×1200／1600（3:2）／ 1280×960／640×480	静止画撮影時の画像サイズを選ぶ（**別冊基本編** → 20ページ）。
（画質）	■ファイン／スタンダード	高画質で記録する。／標準の画質で記録する（**別冊基本編** → 20ページ）。
MODE（**撮影モード**）	TIFF ボイスメモ Eメール ブラケット* 3枚連写 ■通常撮影	JPEGファイルと別にTIFF（非圧縮）ファイルを記録する（23ページ）。 JPEGファイルと別に、音声ファイル（静止画付き）を記録する（25ページ）。 設定されている画像サイズと別に小サイズ（320×240）のJPEGファイルを記録する（24ページ）。 3通りの異なった露出で静止画を3枚撮影する（18ページ）。 3枚連写する（23ページ）。 通常の撮影をする。
±（フラッシュレベル）	明 ■標準 暗	フラッシュの発光量を通常より多くする。 通常の設定。 フラッシュの発光量を通常より少なくする。
PFX（P.**エフェクト**）	ソラリ／モノトーン／セピア／ ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（25ページ）。
（シャープネス）	＋2／＋1／■0／– 1／– 2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面にが出る。

* MVC-CD400のみ

モードダイヤルが「🎞」のとき（SET UPの［動画選択］が［MPEGムービー］のとき）

項目	設定	意味
(EV) **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	+2.0EV／+1.7EV／+1.3EV／+1.0EV／+0.7EV／+0.3EV／■0EV／–0.3EV／–0.7EV／–1.0EV／–1.3EV／–1.7EV／–2.0EV	露出を補正する（14ページ）。
（フォーカス） **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり、フォーカスプリセットで距離を設定する。
WB **（ホワイトバランス）**	*／／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（19ページ）。
（スポット測光） **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	入／■切	撮りたい被写体に露出を合わせる（15ページ）。
（画像サイズ）	320(HQX)／320×240／■160×112	動画撮影時にMPEG画像のサイズを選ぶ（37ページ）。
PFX（P.**エフェクト）**	ソラリ／モノトーン／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（25ページ）。

* MVC-CD400のみ

その他

モードダイヤルが「」のとき（SET UPの［動画選択］が［クリップモーション］のとき）

項目	設定	意味
(EV) **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	+2.0EV／+1.7EV／+1.3EV／+1.0EV／+0.7EV／+0.3EV／■0EV／–0.3EV／–0.7EV／–1.0EV／–1.3EV／–1.7EV／–2.0EV	露出を補正する（14ページ）。
（フォーカス） **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり、フォーカスプリセットで距離を設定する。
WB（**ホワイトバランス）**	*／／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（19ページ）。
（スポット測光） **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	入／■切	撮りたい被写体に露出を合わせる（15ページ）。
（画像サイズ）	■ノーマル／モバイル	クリップモーションの画像サイズを設定する（20ページ）。
±（フラッシュレベル）	明 ■標準 暗	ーフラッシュの発光量を通常より多くする。 ー通常の設定。 ーフラッシュの発光量を通常より少なくする。
PFX（P.**エフェクト）**	ソラリ／モノトーン／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（25ページ）。
（シャープネス）	＋2／＋1／■0／– 1／– 2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面にが出る。

* MVC-CD400のみ

モードダイヤルが「□」のとき（SET UPの［動画選択］が［マルチ連写］のとき）

項目	設定	意味
(EV) **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	+2.0EV／+1.7EV／+1.3EV／+1.0EV／+0.7EV／+0.3EV／■0EV／–0.3EV／–0.7EV／–1.0EV／–1.3EV／–1.7EV／–2.0EV	露出を補正する（14ページ）。
（フォーカス） **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	∞／7.0 m／3.0 m／1.0 m／0.5 m／中央重点AF／■マルチAF	オートフォーカスの方法を選択したり、プレフォーカスで距離を設定する。
WB **（ホワイトバランス）**	*／／／／／■オート	ホワイトバランスを設定する（19ページ）。
（スポット測光） **（メニューでの設定は** MVC-CD250**のみ）**	入／■切	撮りたい被写体に露出を合わせる（15ページ）。
（インターバル）	1/7.5／1/15／■1/30（NTSC） 1/6.3／1/12.5／■1/25（PAL）	マルチ連写する時のシャッター間隔を設定する（22ページ）。 SET UPの［ビデオ出力信号］の設定によって、選択できるシャッター間隔が変わります（71ページ）。
（画質）	■ファイン スタンダード	ー高画質で記録する。 ー標準の画質で記録する。
PFX（P.**エフェクト）**	ソラリ／モノトーン／セピア／ネガアート／■切	画像の特殊効果を設定する（25ページ）。
（シャープネス）	＋2／＋1／■0／– 1／– 2	画像のシャープネスを調節する。設定が0以外のときは、画面にが出る。

* MVC-CD400のみ

モードダイヤルが「▶」のとき

項目	設定	意味
削除	実行 キャンセル	表示中の画像の削除を実行する（**別冊基本編** ➡ 36ページ）。 削除を中止する。
プロテクト	—	画像に誤消去防止指定をする（32ページ）。
プリント	—	プリントしたい静止画像を選ぶ（35ページ）。
スライドショー	間隔設定 繰り返し スタート キャンセル	– スライドショーの間隔を設定する。（シングル画面のときのみ） ■5秒／10秒／30秒／1分 – ■入／切 – スライドショーを実行する。 – スライドショーの設定および実行を中止する。
リサイズ	2272×1704（MVC-CD400のみ）／1600×1200／1280×960／640×480／キャンセル	撮影した静止画の画像サイズを変更する（34ページ）。 （シングル画面のときのみ）
回転	↶左回り／↷右回り／実行／ キャンセル	静止画像を↶左回りまたは、↷右回りに回転する（31ページ）。 （シングル画面のときのみ）

SET UP項目について

モードダイヤルを「SET UP」にすると、SET UP画面が表示されます。
■印はお買い上げ時の設定です。

- 動画／クリップモーションでは、日付・時刻は挿入されません。また、撮影時は日付や時刻は表示されません。再生時に表示されます。

- 下記の条件のとき、AF補助光は発光しません。
  – 夜景モードのとき
  – 風景モードのとき

（ディスクツール）

項目	設定	意味
ファイナライズ	実行／キャンセル	本機でディスクに記録した画像をディスクドライブで見ることができるようにする（**別冊基本編** → 41ページ）。
フォーマット	実行／キャンセル	CD-RWをフォーマットする（**別冊基本編** → 39ページ）。
イニシャライズ	実行／キャンセル	ディスクをイニシャライズする（**別冊基本編** → 19ページ）。
アンファイナライズ	実行／キャンセル	最後に実行したファイナライズを無効にする（**別冊基本編** → 43ページ）。（CD-RWのみ）

（カメラ）

項目	設定	意味
動画選択	■MPEGムービー／クリップモーション／マルチ連写	動画の撮影モードを選ぶ（20、21、37、60ページ）。
日付/時刻	日時分／年月日／■切	画像に日付や時刻を挿入するかどうか設定する（**別冊基本編** → 29ページ）。
デジタルズーム	■入／切	デジタルズームを使うかどうかを選ぶ（**別冊基本編** → 25ページ）。

（カメラ）（つづき）

項目	設定	意味
ブラケット設定 （MVC-CD400**のみ**）	±1.0EV／■±0.7EV／±0.3EV	露出を変えて3枚の画像を撮影するときの露出の振り幅を設定する（18ページ）。
赤目軽減	入／■切	フラッシュ撮影時、被写体の目が赤く写るのを抑制する（**別冊基本編** ➡ 28ページ）。
ホログラフィックAF[*1]／AF**イルミネーター**[*2]	■オート／切	暗いところで撮影するとき、AF補助光を発光させるかどうかを選ぶ（**別冊基本編** ➡ 28ページ）。フォーカスを合わせやすいようにするための機能です。

*1 MVC-CD400

*2 MVC-CD250

（設定1）

項目	設定	意味
ファイルナンバー	■連番 リセット	– ディスクを取り換えても、ファイル番号を連続してつける。 – ディスクごとにファイル番号を0001からつける。
コンバージョンレンズ （MVC-CD400**のみ**）	入／■切	別売りコンバージョンレンズVCL-MHG07を使うとき［入］にする。このとき、ズームおよびフォーカスプリセットは使えません。また、本機にコンバージョンレンズを取り付けるために必要なアダプターリングVAD-S70は一部の国と地域では販売しておりません。
ホットシュー （MVC-CD400**のみ**）	入／■切	市販の外部フラッシュを使うときに設定する。
言語/LANGUAGE	ENGLISH ■日本語／JPN	– メニュー項目・警告表示などを英語で表示する。 – メニュー項目・警告表示などを日本語で表示する。
書き込み確認	入／■切	ディスクに記録する前に、書き込むか削除するかを確認したいときに設定する。
時計設定	実行／キャンセル	時計を合わせる（**別冊基本編** ➡ 16ページ）。

［コンバージョンレンズ］が［入］のときのご注意（MVC-CD400**のみ**）

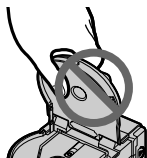
- シーンセレクションやズームは使えません。
- モードダイヤルが「A」または「M」になっていると、絞り値はF4以上しか選べません。
- プリセットしてあるフォーカス設定を選べません。
- マクロ撮影はできません。

■（設定2）

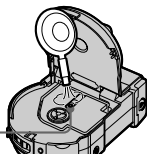
項目	設定	意味
LCD**明るさ**	明／■標準／暗	液晶画面の明るさを選ぶ。記録される画像に影響はない。
LCD**バックライト**	明／■標準	液晶バックライトの明るさを選ぶ。屋外など明るい場所で使うときに「明」を選ぶと画面は明るく見やすくなるが、バッテリーの消耗は早くなる。バッテリー使用時のみ表示される項目。
お知らせブザー	シャッター ■入 切	– シャッターボタンを押したとき、シャッター音が鳴る。 – コントロールボタン／シャッターボタンを押したときなどに、ブザー／シャッター音が鳴る。 – 音は鳴らない。
ビデオ出力信号	■NTSC PAL	– ビデオ出力信号をNTSCモードに設定する（日本、米国など）。 – ビデオ出力信号をPALモードに設定する（欧州など）。

使用上のご注意

本機の取り扱いについて

ディスクカバーを持って本機を運ばない

回転中のディスクに手を触れない
けがをするおそれがあります

ピックアップレンズのお手入れについて

ピックアップレンズが汚れて本機が正常に動作しなくなったときは、市販のブロアーを使ってクリーニングしてください。

ピックアップレンズについて

本機のピックアップレンズ（ディスクカバーの内側）に触れないでください。また、ほこりがつかないようにディスクを出し入れするとき以外はディスクカバーを閉じておいてください。

お手入れについて

液晶画面をきれいにする
液晶画面に指紋やゴミがついて汚れたときは、別売りの液晶クリーニングキットを使ってきれいにすることをおすすめします。

レンズをきれいにする
レンズに指紋やゴミがついて汚れたときは、柔らかい布などを使ってきれいにすることをおすすめします。

DCプラグをきれいにする
ACパワーアダプターのDCプラグが汚れたまま使用しないでください。汚れた場合は乾いた綿棒などでふき取ってください。
DCプラグが汚れたままご使用になると本機が正しく充電されないことがあります。

表面のお手入れについて
水やぬるま湯を少し含ませた柔らかい布で軽くふいたあと、からぶきします。シンナー、ベンジン、アルコールなどは表面を傷めますので使わないでください 。

海岸やほこりの多い場所で使ったあとは
カメラをよく清掃してください。潮風で金属が腐食したり、砂ぼこりが内部に入ったりすると故障の原因になります。

動作温度にご注意ください

本機の動作温度は約0℃～40℃です。動作温度範囲を越える極端に寒い場所や暑い場所での撮影はおすすめできません。

結露について

結露とは、本機を寒い場所から急に暖かい場所へ持ち込んだときなどに、本機の内部や外部に水滴が付くことです。この状態でお使いになると、故障の原因になります。

結露が起こりやすいのは

- スキー場のゲレンデから暖房の効いた場所へ持ち込んだとき
- 冷房の効いた部屋や車内から暑い屋外へ持ち出したとき、など。

結露を起こりにくくするために

本機を寒いところから急に暖かい所に持ち込むときは、ビニール袋に本機を入れて、空気が入らないように密閉してください。約1時間放置し、移動先の温度になじんでから取り出します。

結露が起きたときは

電源を切って結露がなくなるまで約1時間放置し、結露がなくなってからご使用ください。特にレンズの内側についた結露が残ったまま撮影すると、きれいな画像を記録できませんのでご注意ください。

内蔵の充電式ボタン電池について

本機は日時や各種の設定を電源の入／切に関係なく保持するために充電式ボタン電池を内蔵しています。
充電式ボタン電池は本機を使用している限り常に充電されていますが、使う時間が短いと徐々に放電し1か月程度まったく使わないと完全に放電してしまいます。充電してから使用してください。
ただし、充電式ボタン電池が充電されていない場合でも、日時を記録しないのであれば本機を使うことができます。

充電方法

本機をACパワーアダプターを使ってコンセントにつなぐか、充電されたバッテリーを取り付け、電源を切ったまま24時間以上放置する。

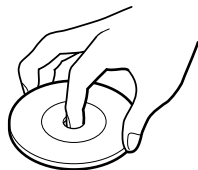
ディスクの取り扱い上のご注意

お手入れについて

ディスクのお手入れ

- データを記録する前にディスクをクリーナーで拭かないでください。ほこりなどの汚れは、ブロアーを使って吹き飛ばしてください。
- ディスクの信号記録面（印刷されていない面）に指紋やほこり、水滴、油などが付着したりすると、正しいデータを記録できないことがあります。取り扱いには充分ご注意ください。
- ディスクの両面とも傷つけないようにしてください。
- ディスクが汚れたときは、乾いた柔らかい布またはエチルアルコールを少量付けた柔らかい布でディスクの中心から外の方向へ軽く拭き取ってください。CDクリーナーもご使用になれます。
  ベンジン、シンナー、静電気防止剤、LPクリーナーなどは使用しないでください。

ご注意

- データの読み込み中、書き込み中には ディスクを取り出さないでください。
- 以下の場合、データが壊れることがあります。
  - 読み込み中、書き込み中にディスクを取り出したり、本機に衝撃をあたえた場合
  - 本機の電源を切った場合
  - 静電気やノイズの影響を受ける場所で使用した場合
- ディスクにはラベルなど、粘着性のあるものを貼らないでください。回転ムラが生じ、故障の原因になります。
- タイトルなどが記入できるのは白色のレーベル面だけです。ボールペンなどの先の硬いものは避け、油性フェルトペンで記入し、インクが乾くまでは触れないでください。加熱による乾燥は避けてください。
- ディスクは外縁を支えるようにして持ちます。信号記録面（印刷されていない面）には触れないでください。

- 持ち運びや保管の際は、付属の収納ケースに入れてください。
- ディスクの外周部をこすったり、強い衝撃を与えたり、曲げたり、落としたりしないでください。
- ほこりやちりの多いところ、直射日光の当たるところ、暖房器具の近く、湿気の多いところには保管しないでください。
- ディスクドライブなどの再生機に未記録の状態でかけると誤動作を起こしたり、ディスクを傷つけたりする場合があります。

バッテリーについて

InfoLITHIUM（インフォリチウム）バッテリーとは？

“インフォリチウム”バッテリーは、本機との間で、使用状況に関するデータを通信する機能を持っているリチウムイオンバッテリーです。

“インフォリチウム”バッテリーが、本機の使用状況に応じた消費電力を計算してバッテリー残量を分単位で表示します。

充電について

- 周囲の温度が10～30℃の環境で充電してください。これ以外では、効率のよい充電ができないことがあります。
- 満充電することをおすすめします（別冊基本編 ➡ 10ページ）。

バッテリーの上手な使い方

- 周囲の温度が低いとバッテリーの性能が低下するため、使用できる時間が短くなります。より長い時間ご使用いただくために、バッテリーをポケットなどに入れて温かくしておき、撮影の直前、本機に取りつけることをおすすめします。
- ズームやフラッシュを使用した撮影を頻繁にすると、バッテリーの消耗が早くなります。
- 撮影には予定撮影時間の2〜3倍の予備バッテリーを準備して、事前に試し撮りをしてください。
- バッテリーは防水構造ではありません。水などに濡らさないようにご注意ください。

バッテリーの残量表示について

バッテリーの残量表示が充分なのにバッテリーがすぐ切れる場合は、再度満充電してください。残量が正しく表示されます。ただし長時間高温で使用したり、満充電で放置した場合や、使用回数が多いバッテリーは正しい表示に戻らない場合があります。

バッテリーの保管方法について

- バッテリーを長時間使用しない場合でも、機能を維持するために1年に1回程度満充電にして本機で使い切ってから湿度の低い涼しい場所で保管してください。

バッテリーの寿命について

- バッテリーには寿命があります。使用回数を重ねたり、時間が経過するにつれバッテリーの容量は少しずつ低下します。使用できる時間が大幅に短くなった場合は、寿命と思われますので新しいものをご購入ください。
- 寿命は、保管方法、使用状況や環境により異なります。

主な仕様

本体

システム

撮像素子 MVC-CD400
8.98 mm（1/1.8型）カラーCCD
原色フィルター
MVC-CD250
6.64 mm（1/2.7型）カラーCCD
原色フィルター

総画素数 MVC-CD400
約4 130 000画素
MVC-CD250
約2 110 000画素

レンズ MVC-CD400
3倍ズームレンズ
f=7～21.0 mm（35 mmカメラ換算では34～102 mm）、F2.0～2.5
MVC-CD250
3倍ズームレンズ
f=6.4～19.2 mm（35 mmカメラ換算では41～123 mm）、F3.8～3.9

カメラ

カメラ有効画素数
MVC-CD400
3 950 000画素
MVC-CD250
1 980 000画素

露出制御 MVC-CD400
自動、シャッター優先、絞り優先、手動、シーンセレクション（4モード）
MVC-CD250
自動、シーンセレクション（3モード）

ホワイトバランス
オート、太陽光、曇天、蛍光灯、電球、ワンプッシュ*
* MVC-CD400のみ

記録方式 静止画：DCF準拠（Exif Ver. 2.2 JPEG準拠、GIF（クリップモーション時））、TIFF、DPOF対応
音声付静止画：MPEG1準拠（モノラル）
動画：MPEG1準拠

記録メディア
8cm CD-R/CD-RW

フラッシュ MVC-CD400
推奨撮影距離0.5～5.0 m（ISO感度がオートのとき）
MVC-CD250
推奨撮影距離0.8～3.5 m（ISO感度がオートのとき）

ドライブ

再生記録読み取り方式
非接触光学読み取り（半導体レーザー使用）

レーザー 波長：779～789 nm
最大出力：23 mW

入／出力端子

A/V OUT（MONO）**端子（モノラル）**
ミニジャック
映像：1 Vp-p、75 Ω不平衡、同期負
音声：327 mV（47 kΩ負荷時）
出力インピーダンス:2.2 kΩ

ACC**端子** ミニミニジャック（Ø2.5 mm）

USB**端子** mini-B

液晶画面

使用液晶パネル
6.2 cm（2.5型）TFT駆動

総ドット数 123 200（560×220）ドット

電源・その他

使用バッテリー
NP-FM50（付属）

電源電圧バッテリー端子入力
7.2 V

消費電力（撮影時、LCDバックライトオン）
MVC-CD400
3.0 W
MVC-CD250
2.5 W

動作温度 0°C～+40°C

保存温度 –20°C～+60°C

外形寸法 MVC-CD400
約138×95×103 mm
（幅×高さ×奥行、最大突起部を除く）
MVC-CD250
約138×95×101 mm
（幅×高さ×奥行、最大突起部を除く）

本体質量 MVC-CD400
約638 g
（バッテリーNP-FM50、ディスク、レンズキャップなど含む）
MVC-CD250
約608 g
（バッテリーNP-FM50、ディスク、レンズキャップなど含む）

ACパワーアダプターAC-L10A

電源 AC100～240 V、50/60 Hz

定格出力 DC8.4 V、1.5 A

動作温度 0°C～+40°C

保存温度 –20°C～+60°C

外形寸法 125×39×62 mm
（幅×高さ×奥行、最大突起部を除く）

本体質量 約280 g

バッテリーNP-FM50

使用電池 リチウムイオン蓄電池

最大電圧 DC8.4 V

公称電圧 DC7.2 V

容量 8.5 Wh（1180 mAh）

動作温度 0°C～+40°C

最大外形寸法
38.2×20.5×55.6 mm
（幅×高さ×奥行）

本体質量 約76 g

付属品

- ACパワーアダプターAC-L10A（1）
- 電源コード（1）
- 専用USBケーブル（1）
- バッテリーパックNP-FM50（1）
- A/V接続ケーブル（1）
- 8cm CDアダプター（1）
- マビカディスク（7）（CD-R×6、CD-RW×1）
- ショルダーストラップ（1）
- レンズキャップ（1）
- レンズキャップ用ひも（1）
- CD-ROM（SPVD-009）（1）
- CDマビカ基本編（1）
- CDマビカ応用編／困ったときは（1）
- 安全のために（1）
- 保証書（1）

本機の仕様および外観は、改良のため予告なく変更することがありますが、ご了承ください。

保証書とアフターサービス

必ずお読みください

記録内容の補償はできません

万一、デジタルスチルカメラやディスクなどの不具合などにより記録や再生されなかった場合、記録内容の補償については、ご容赦ください。

保証書は国内に限られています

このデジタルスチルカメラは国内仕様です。外国で万一、事故、不具合が生じた場合の現地でのアフターサービスおよびその費用については、ご容赦ください。

保証書

- この製品には保証書が添付されていますので、お買い上げの際お買い上げ店でお受け取りください。
- 所定事項の記入および記載内容をお確かめの上、大切に保存してください。

アフターサービス

調子が悪いときはまずチェックを

「故障かな？と思ったら」の項を参考にして故障かどうかお調べください。

それでも具合の悪いときは

テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

保証期間中の修理は

保証書の記載内容に基づいて修理させていただきます。詳しくは保証書をご覧ください。

保証期間経過後の修理は

修理によって機能が維持できる場合は、ご要望により有料修理させていただきます。

部品の交換について

この商品は修理の際、交換した部品を再生、再利用する場合があります。その際、交換した部品は回収させていただきます。

部品の保有期間について

当社はデジタルスチルカメラの補修用性能部品（製品の機能を維持するために必要な部品）を製造打ち切り後8年間保有しています。この部品保有期間が経過した後も、故障個所によっては修理可能の場合がありますので、テクニカルインフォメーションセンターにご相談ください。

画面上の表示

静止画撮影時

- メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。
- MVC-CD250では、メニューに［ ］（EV）、［ ］（フォーカス）、［ ］（スポット測光）の項目が表示されます。

その他

動画撮影時

- メニュー／ガイドメニューは、MENUボタンを押すと、表示／非表示が切り換わります。
- MVC-CD250では、メニューに［ ］（EV）、［ ］（フォーカス）、［ ］（スポット測光）の項目が表示されます。

静止画再生時

動画再生時

画像サイズ表示（38）

撮影モード表示（60）

音量表示（38）

再生表示（38）

60分

320

音量

6/8

0:12

削除　プロテクト　プリント　スライドショー

●ジッコウ

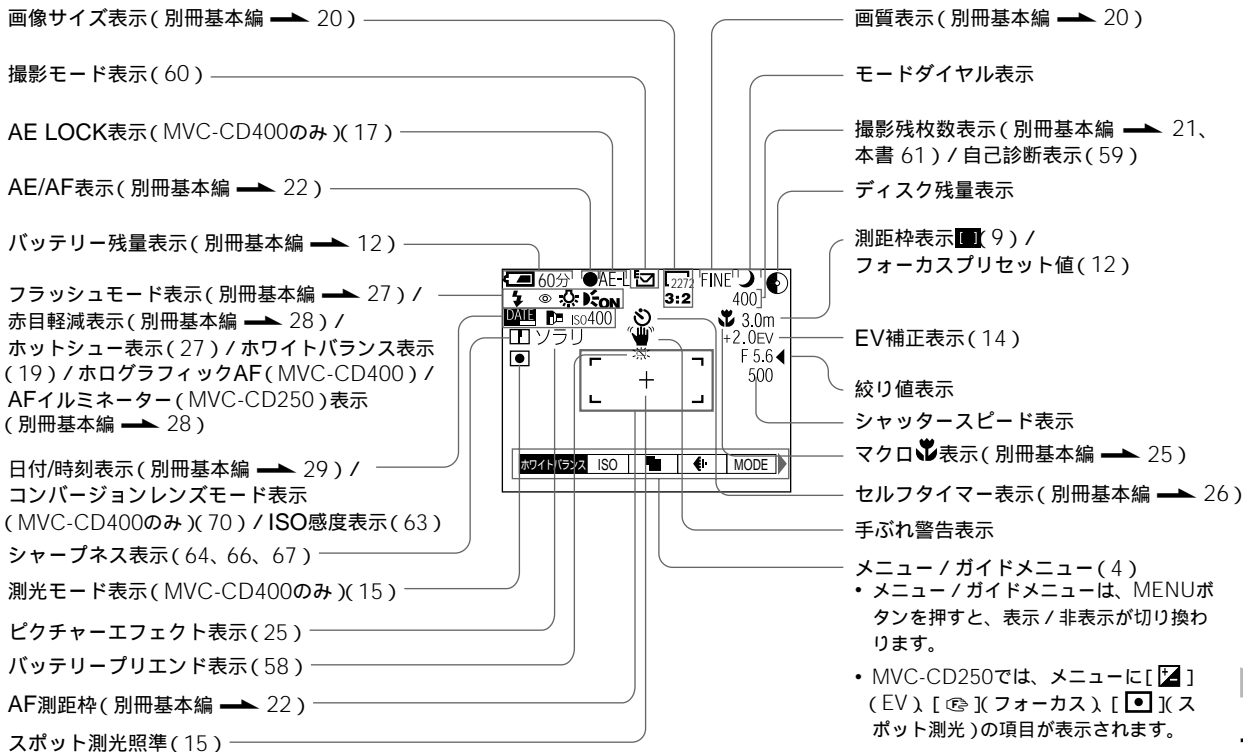
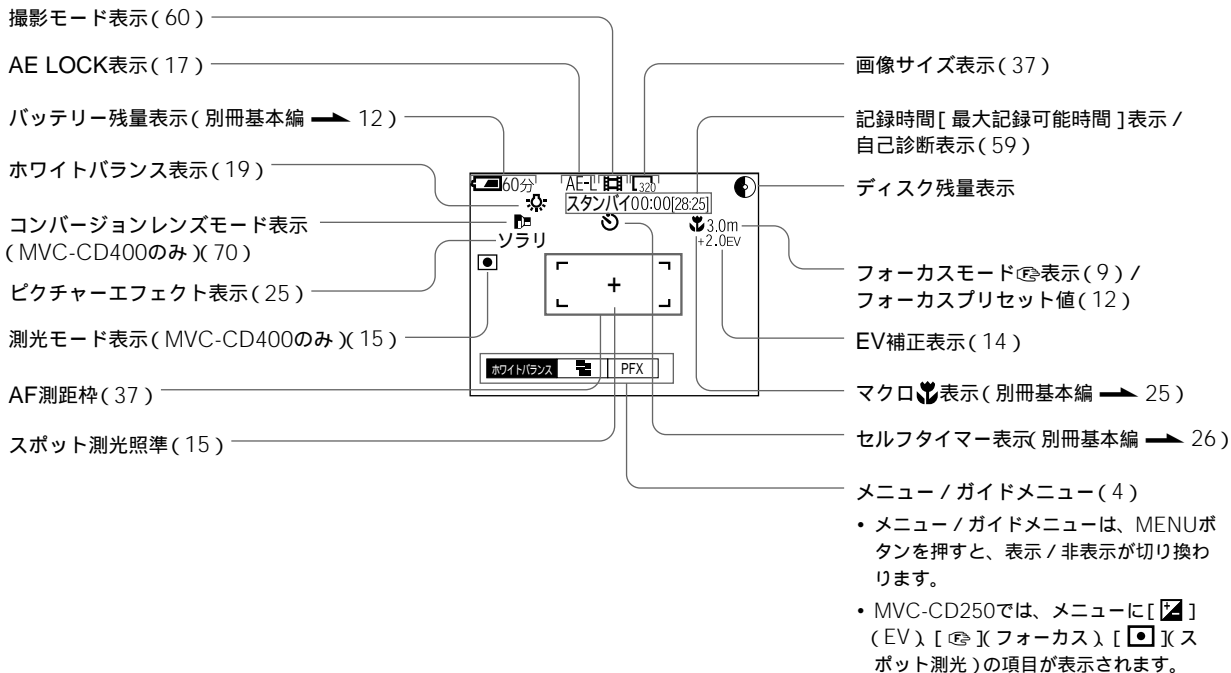
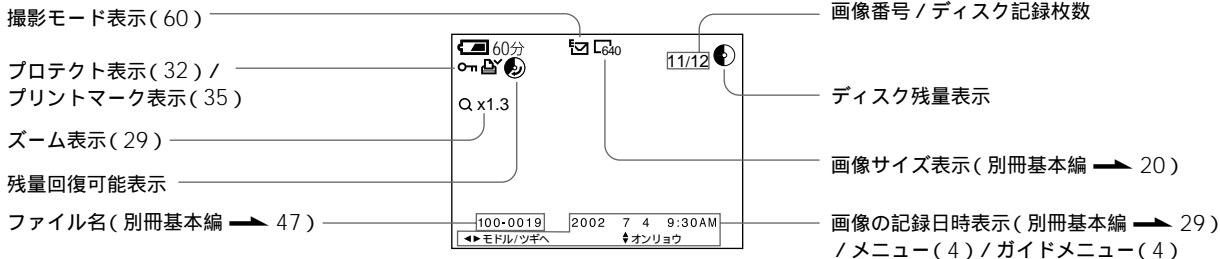
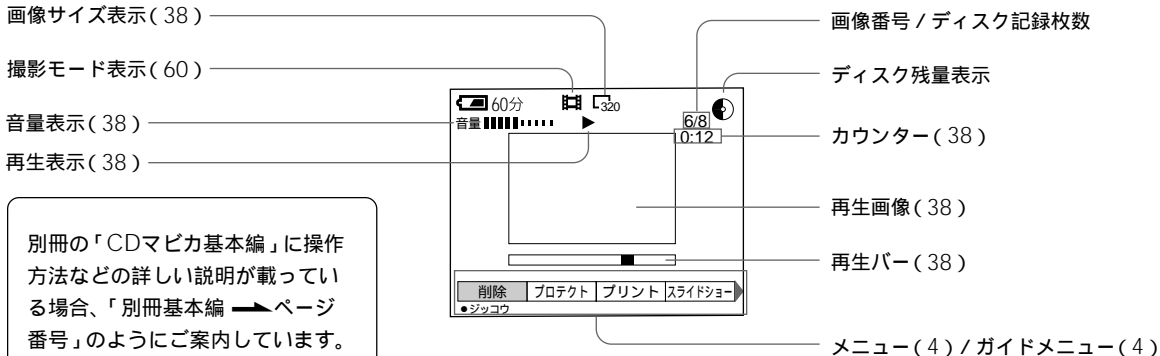
画像番号／ディスク記録枚数

ディスク残量表示

カウンター（38）

再生画像（38）

再生バー（38）

メニュー（4）／ガイドメニュー（4）

別冊の「CDマビカ基本編」に操作方法などの詳しい説明が載っている場合、「**別冊基本編 ➡**ページ番号」のようにご案内しています。

その他

用語の解説

アンファイナライズ（別冊基本編 ➡ 43ページ）
直前に実行したファイナライズを取り消すことです。アンファイナライズするとファイナライズの実行で使用したディスク容量（約13 MB）を元に戻すことができます。CD-Rはアンファイナライズできません。

イニシャライズ（別冊基本編 ➡ 19ページ）
ディスクにデータを書き込めるようにすることです。パソコンや他機でファイナライズしたディスクに追加書き込みをするにはイニシャライズを行います。イニシャライズしても、ファイナライズする以前に記録した画像ファイルはそのまま残ります。

インストール（別冊基本編 ➡ 51ページ）
ソフトウェアなどをコンピュータにコピーして組み込むことです。

オートパワーオフ機能（別冊基本編 ➡ 15ページ）
本機の電源を入れたまま約3分間操作をしないと、バッテリーの消耗を防ぐため、本機の電源を自動的に切る機能のことです。

シャッタースピード
シャッターを開いてCCDに光を当てる時間のことです。シャッタースピードを速くすると動きのある被写体も止まって写り、遅くすると流れて写ります。

デジタルズーム（別冊基本編 ➡ 25ページ）
デジタル処理により画像を拡大する機能のことです。光学式ズームに比べて画質は劣ります。

ドライバ
どのような周辺機器がどのように接続されているかをコンピュータ側に知らせ、周辺機器を正しく動かすために必要なソフトウェアのことです。

半押し（別冊基本編 ➡ 22ページ）
シャッターを押し込まず、半分押した状態にしておくことです。シャッターを半押しすると、撮影状況に合わせてピントと露出を自動で調整します。

ピント（別冊基本編 ➡ 23ページ）
被写体に対する焦点のことです。本機はピントを自動で調整しますが、撮影距離を設定して撮影することもできます。

ファイナライズ（別冊基本編 ➡ 41ページ）
ディスクをパソコンのディスクドライブで読めるようにすることです。1度ファイナライズを実行したディスクでも、再びイニシャライズすれば画像の追加書き込みができます。本機でファイナライズを行った場合は、自動的にイニシャライズも行われるので、引き続き画像の追加書き込みができます。

フォーマット（別冊基本編 ➡ 39ページ）
記録した画像をすべて消去するときや、本機以外でフォーマットしたCD-RWをお使いになるときに行う作業のことです。フォーマットすると、記録メディアに保存されているデータはすべて消えます。本機でフォーマットしたCD-RWは自動的にイニシャライズされます。CD-Rはフォーマットできません。

ホワイトバランス（19ページ）
光源に合わせて色を調整する機能のことです。被写体の見た目の色は光の状況に影響されます。例えば、電球の下で撮影すると白い被写体が赤っぽく映ります。ホワイトバランスを設定すると、自然な色合いで撮影することができます。

露出（14ページ）
絞りとシャッタースピードの値により決まる光の量のことです。

AE（**別冊基本編** ➡ 22ページ）
「Auto Exposure」の略です。被写体の明るさをカメラが判断し、自動で露出を決める機能のことです。

AF（**別冊基本編** ➡ 22ページ）
「Auto Focus」の略で、カメラが自動でピントを合わせる機能のことです。

CCD（76ページ）
「Charge Coupled Device」の略で、光を電気信号に変換する半導体の一種のことです。

DCF
「Design rule for Camera File system」の略で、（社）電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された統一規格のことです。

DPOF（35ページ）
「Digital Print Order Format」の略で、「ディーポフ」と読みます。印刷したい写真を記録メディア上に指定することができます。

EV（14ページ）
「Exposure Value」の略で、露光量を表す単位のことです。

GIF（**別冊基本編** ➡ 48ページ、本書20ページ）
「ジフ」と読みます。静止画ファイルの形式のひとつで、インターネットのホームページ上で表示を行うときに使われる代表的なものです。 本機では、クリップモーションでの撮影時にGIF形式で画像を保存します。

ISO（63ページ）
「イソ」と読みます。
カメラフィルムの光に対する感応度のことです。ISO単位で表します。数値が大きいほど高感度の撮影ができます。

JPEG（**別冊基本編** ➡ 22、48ページ）
「ジェイペグ」と読みます。インターネットで扱う代表的なカラーの静止画を圧縮する形式のことです。本機では、通常の静止画撮影時、JPEG形式で画像を保存します。

MPEG（**別冊基本編** ➡ 48ページ、本書37ページ）
「エムペグ」と読みます。カラー動画像の圧縮方式のひとつで、品質の良い画像や高い圧縮形式が得られます。本機では、動画（MPEGムービー）撮影時と、ボイスメモでの撮影時に音声をMPEG形式で保存します。

OS（**別冊基本編** ➡ 50ページ）
「Operating System」の略で、コンピュータ全体を管理し、コンピュータを操作するのに必要な基本ソフトウェアのことです。

PTP（**別冊基本編** ➡ 51ページ）
「Picture Transfer Protocol」の略です。パソコンに画像データを簡単にコピーできる接続方法のことです。

TIFF（**別冊基本編** ➡ 48ページ、本書23ページ）
「ティフ」と読みます。静止画の保存形式のひとつで、画像データを圧縮しないため、画像が劣化しません。本機では、TIFFモードでの撮影時にTIFF形式でJPEG方式画像を保存します。

USB（**別冊基本編** ➡ 49、56、63ページ）
「Universal Serial Bus」の略です。キーボードやマウスなどのパソコンの周辺機器を接続するための規格のことです。

索引

数字の前に「基」がついているページは別冊基本編のページです。

ア行

カ行

サ行

タ行

ハ行

マ行

ラ行

アルファベット順

電話のおかけ間違いにご注意ください。

ソニーではデジタルスチルカメラをお買い上げの皆様へのサポートをより充実させていくため、お客様に「カスタマーご登録」をお勧めしています。詳しくは同梱の「カスタマーご登録のお勧め」をご覧ください。

■ **カスタマーご登録およびご登録内容の変更はこちらのホームページから：**
http://www.sony.co.jp/di-regi/
カスタマーご登録に関するお問い合わせ：**ソニーマーケティング（株）カスタマー専用デスク**
電話：03-5977-7255
受付時間：**月～金曜日　午前10時～午後6時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）

お問い合わせ窓口のご案内

電話のおかけ間違いにご注意ください。

■ **デジタルイメージングカスタマーサポート**
デジタルスチルカメラとパソコンの接続方法や、最新サポート情報をご案内するホームページです。
http://www.sony.co.jp/support-di/

■ **テクニカルインフォメーションセンター**
ご使用上での不明な点や技術的なご質問のご相談、および修理受付の窓口です。
製品の品質には万全を期しておりますが、万一不具合が生じた場合は、「テクニカルインフォメーションセンター」までご連絡ください。修理に関するご案内をさせていただきます。また、修理が必要な場合は、お客様のお宅まで指定宅配便で取りにおうかがいしますので、まずお電話ください。
電話：0564-62-4979
受付時間：**月～金曜日　午前9時～午後5時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）
お電話の前に以下の内容をご用意ください。

① お客様のデジタルイメージングカスタマーID
（既にカスタマーご登録されたお客様にはカスタマーIDが発行されています。）
② 本機の型名（本機底面をご覧ください。）
③ 本機の製造番号（本機底面をご覧ください。）

■ **ピクセラユーザーサポートセンター**
ImageMixer for Sony, PTP Managerに関するお問い合わせ窓口です。
電話：072-224-0181
受付時間：**月～日曜日　午前9時～午後5時**（ただし、年末、年始、祝日を除く）
http://www.imagemixer.com

ソニー株式会社 〒141-0001 東京都品川区北品川6-7-35

http://www.sony.co.jp/

Printed in Japan

この説明書は再生紙を使用しています。

この説明書はVOC（揮発性有機化合物）ゼロの植物油型インキを使用しています。

サイバーショットオフィシャルWEBサイト
http://www.sony.co.jp/cyber-shot/
サイバーショット、マビカの最新情報を掲載。
撮影方法やアクセサリー情報、パソコン接続に関する情報を掲載しています。